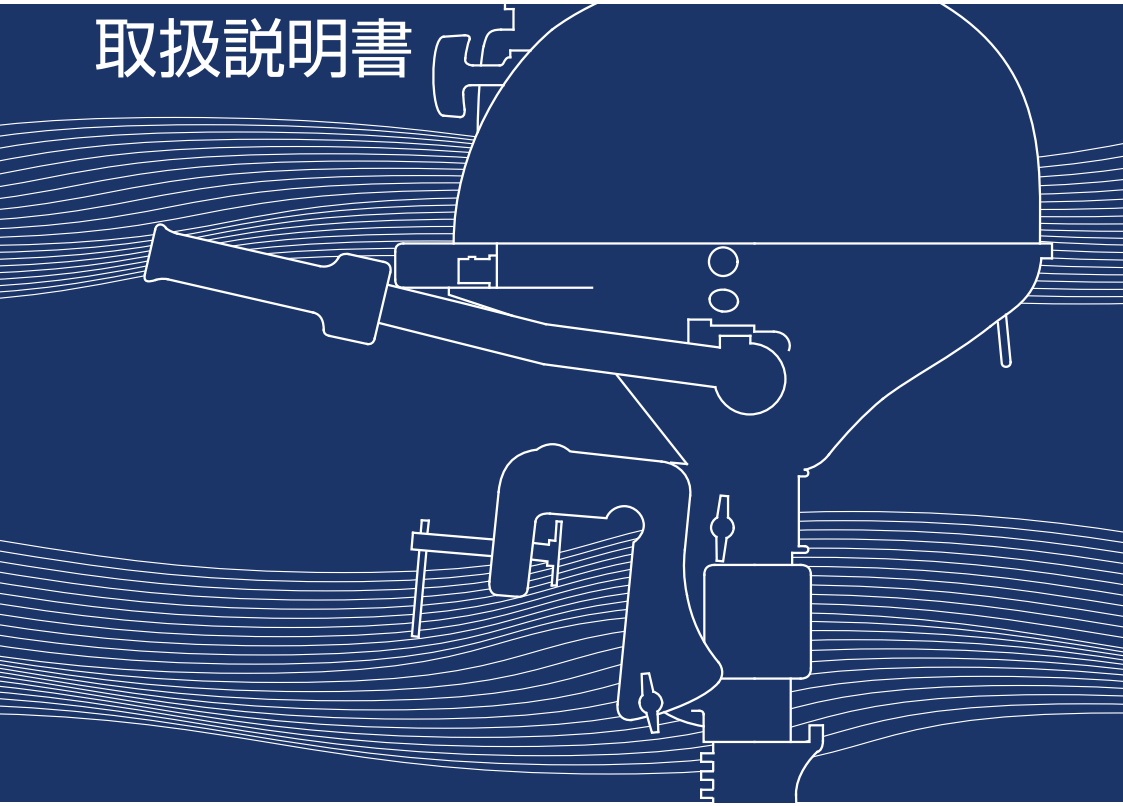
HONDA MARINE

BF2D

取扱説明書



Service & Support

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Honda 4 ストローク船外機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

★取扱説明について

　この取扱説明書は

－乗船するときは必ず携帯してください。

－紛失や損傷の起きない場所に保管してください。

－船外機を貸与または譲渡される場合は、本機といっしょにお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

お買いあげいただいた船外機は国内自主規制の排気ガス規制値を大幅に下回る環境性能を達成しています。

Honda の船外機は全て（一社）日本マリン事業協会のマリンエンジン排ガス自主規制の最終規制値をクリアしています。

この取扱説明書は、お買いあげいただいた船外機を安全に正しく操作する手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、船外機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

船外機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、船外機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
船外機について 4
出航する前に 5
船の安全とルール 6
安全ラベル 10

Honda 4 ストローク船外機の点検・整備方式 11

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 12
リコイルスターターグリップ 14
チョークノブ 14
スロットルグリップ 15
スロットルグリップ固定つまみ 15
エンジン停止スイッチ 16
非常停止スイッチ 16
燃料給油キャップ／通気ノブ 17
燃料コックレバー 17
チルトレバー 18
クランプハンドル 18
蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト） 19
調整ロッド 19
エンジンオイル点検窓 20
カバー固定バンド 20
アノードメタル 20

船外機の正しい取付けかた 21
適応ボート 21
トランサム高さ 21
取付け位置 21
取付け高さ 22
取付けかた 23
取付け角度（角度の調整） 24

お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう 25
エンジンオイルの点検 25
燃料の点検 27
その他の点検 29

エンジンのかけかた 30

エンジンのとめかた 34
緊急停止の場合 34
通常停止の方法 34

運転操作のしかた 36
走りかた 36
かじ取り 36
後進のしかた 37
チルトアップのしかた 38

運搬のしかた 41
船体から船外機を外した状態で運搬を行う場合 41
船体に船外機を取付けた状態で運搬を行う場合 43

定期点検を行いましょう 44

点検・整備のしかた 45
付属工具と付属部品 45
エンジンオイルの交換 46
ギアオイルの交換 48
点火プラグの点検・調整・交換 49
耐水グリース給油箇所 50
プロペラの交換のしかた 51
シャーピンの交換 52
スターターロープの点検 53
始動装置の故障 53
船外機が落水したとき 55
エンジンがかからないとき 55

保管のしかた 56
清掃 57
燃料の抜きかた 58

故障のときは 60

主要諸元 62

配線図 63

点検整備記録表 64

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために、つぎの指示に従ってください。

★船外機について

- エンジン出力に適応するボートを選定してください。また、船外機が正しく搭載されていることを確認してください。
- 他の人に船外機を運転させる場合は適切な指示をしてください。
- ガード、ラベル、カバーなどの安全装置を取外さないでください。これらのものはあなたの安全のために取付けられています。
- 船外機を改造しないでください。
- 非常時に備えてエンジンをすばやく停止させる方法を理解してください。
- 航走中は非常停止スイッチのコード（カールコード）を運転者の身体の一部に必ずつけてください。
- 幼児や子供が運転の妨げにならないように注意してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。ガレージやボートハウスなど換気の悪い所ではエンジンを始動しないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大ケガや死亡事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止して換気のよい場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときや、燃料タンクの付近では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料タンクには燃料を入れ過ぎないでください。また、補給後、燃料給油キャップが正しく、しっかりと締まっていることを確認してください。
- 燃料を補給するときはこぼさないように注意してください。こぼれた燃料や気化した燃料に引火することがあります。

警告

★出航する前に

艇の出航および操船時には、オーナー（船長）は、艇の点検、天候、海況の判断、安全の確保に対して、適切な対応が出来るよう常に心がけてください。このようなとき、出航はやめましょう。

・天気予報で、強風注意報、または警報が発令されているとき。

・日本の沖合に台風があるとき。

上記のようなとき、たとえ港内は静かでも出口付近では潮流などと相まって思わぬ高波になっていることがあります。

天気予報を確認しましょう。

海の気象は変わりやすいものです。常に天気予報を確認して、天気が悪くなりそうなときは、出航しない、寄港することを守ってください。

・天気予報を知る代表的な方法

・新聞の天気予報、ラジオ・テレビの天気予報

・電話の天気予報;ダイヤル 177(航行水域に当たる地方の市外局番 +177)

・地方気象台、漁業組合、マリーナへの問い合わせ

・空を観測し天気を予想すること

・航行計画をマリーナ、身内または友人に知らせましょう

・無理な計画は立てない

・夜間、暗い未明、日没前は出航をしない

・できるだけ二隻以上のグループで行動する

・行動水域の状況を調べておく

・天気が悪くなった場合の避難港を選んでおく

・船舶安全規則で定められた法定備品等の確認をする

・携帯電話を防水パックに入れて携行する

・オールを携行する

・乗員と積荷に気をくばりましょう

・定員をオーバーして乗せない

・乗員や積荷はバランスよく配置する

・ボートへの飛び乗り、飛び降り禁止

・ボート内は姿勢を低くして移動する

出航前各部作動点検を徹底しましょう。

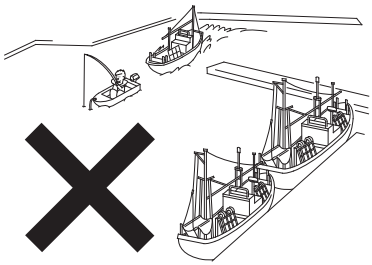
帰航後の点検を実施しましょう。

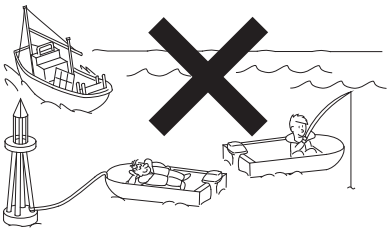
警告

★船の安全とルール

- 見張りを励行しましょう。
  - ・航行中、漂泊中、錨泊中を問わず周囲の見張りを行いましょう。
  - ・漂流物や藻など、また、衝突のおそれのある船が近づいていないことを確認しましょう。
  - ・船位を把握し、船の性能を考慮して岸から離れすぎないようにしましょう。
  - ・潮流や波の激しくなる水域には入らないようにしましょう。
- 船の法律や規則を守りましょう。
  - ・船外機を運転する前に、ボートの航走に関する全ての法律や規則を熟知し、正しい運転を行ってください。
  - ・海上衝突防止法、海上交通安全法、港則法などのルールを守ってください。
  - ・ボートに乗る人は必ずライフジャケットを着用してください。

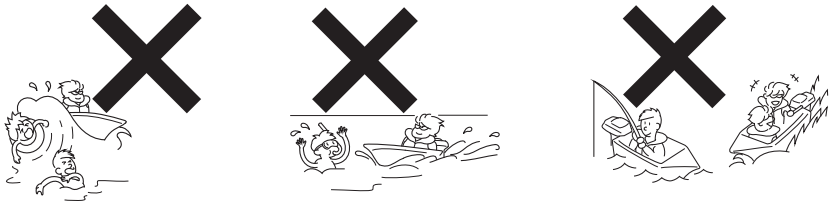
  - ・航路内、狭水道で錨泊、漂泊や浮標への係留はしないようにしてください。



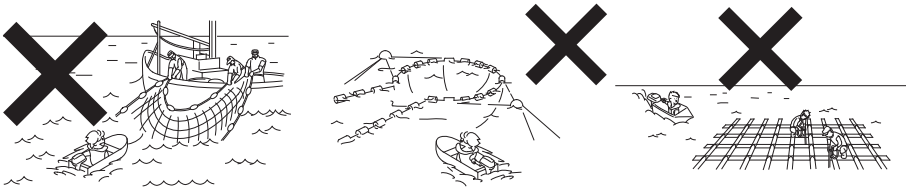


警告

・遊泳中の人がいる場所では、運転しないでください。
・海水浴場やダイビング、釣りをしている人に近づかないでください。



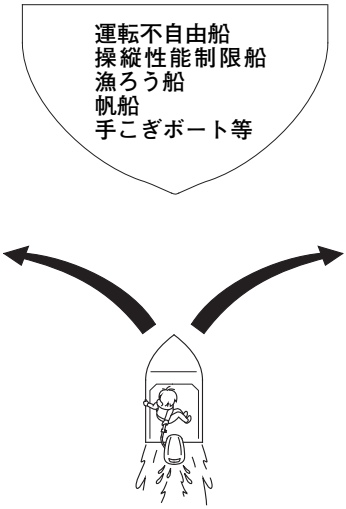
・漁ろう中の漁船、定置網、養殖場に近づかないでください。



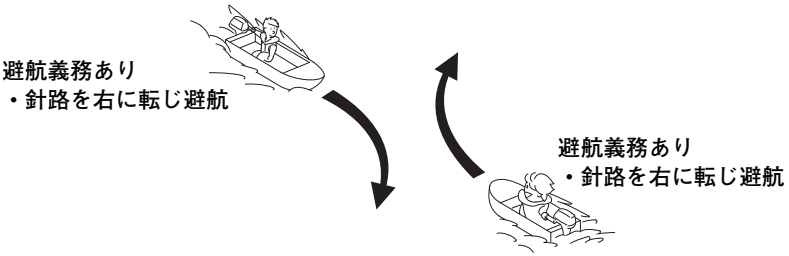
・法律や条例などで航行が禁止されている水域や工事、作業が行われている区域に入らないでください。
・酒を飲んでの運転や薬物を服用して船を運転しないでください。判断力がにぶり重大な事故を引き起こすことがあります。
・衝突を避けるための針路または速力の変更は、十分余裕を持ち他船が容易に確認できるように大幅に行いましょう。

警告

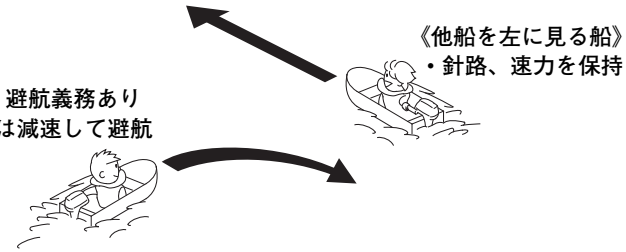
・運転不自由船、操縦性能制限船、漁ろう船、帆船、手こぎボート等の針路をさまたげないようにしましょう。



・行き会い船：お互いに右に転じて避けます



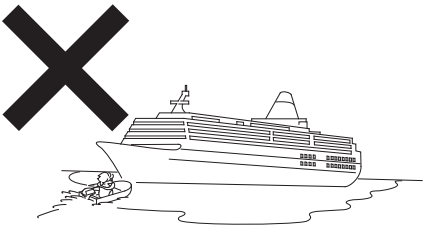
・横切り船：他船を右に見る船が右に転じるか減速します



警告

・追い越し船：確実に追い越し、十分遠ざかるまで他船の針路を避けます

・大型船は死角が大きいため近づかないようにしましょう。

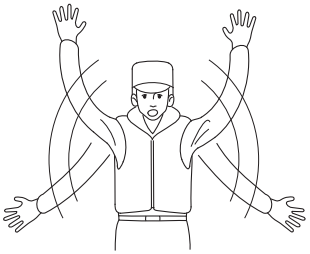


・もしものときは

・乗員や他の人が水中に落ちたときは、直ちにエンジンを停止し救助してください。

・海上における事件・事故の緊急通報用電話番号としてダイヤル 118 番が開設されています、事故または故障などにより救援が必要となったとき、携帯電話、PHS などから海上保安庁へ連絡できます。

・救助合図は両腕を広げ上下に振ります。



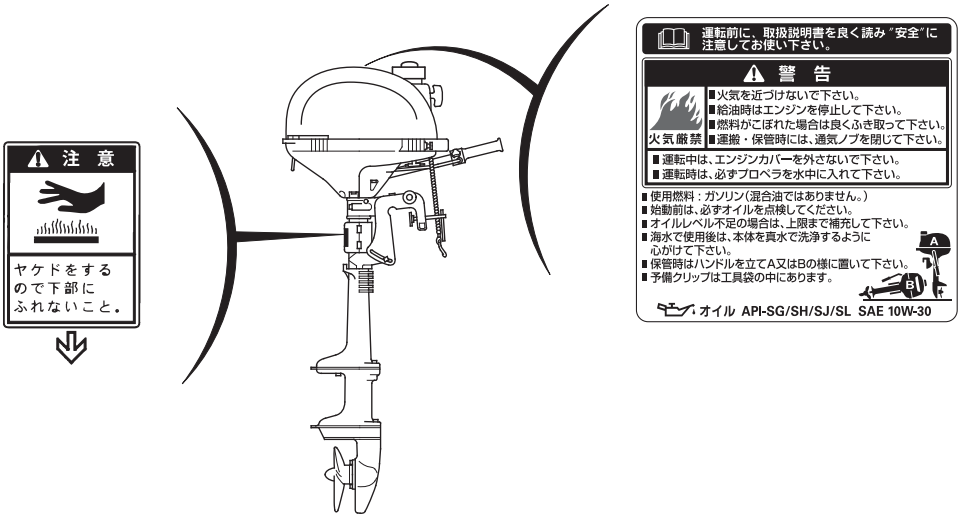
安全ラベル

船外機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。

ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。



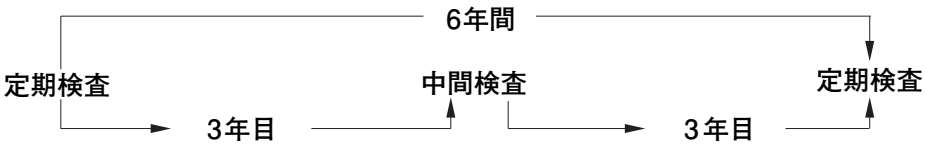
Honda 4 ストローク船外機の点検・整備方式

安全に航行するために、また船外機を快適にお使いいただくために、定められた点検・整備を必ず行いましょう。

点検・整備には以下のものがあります。

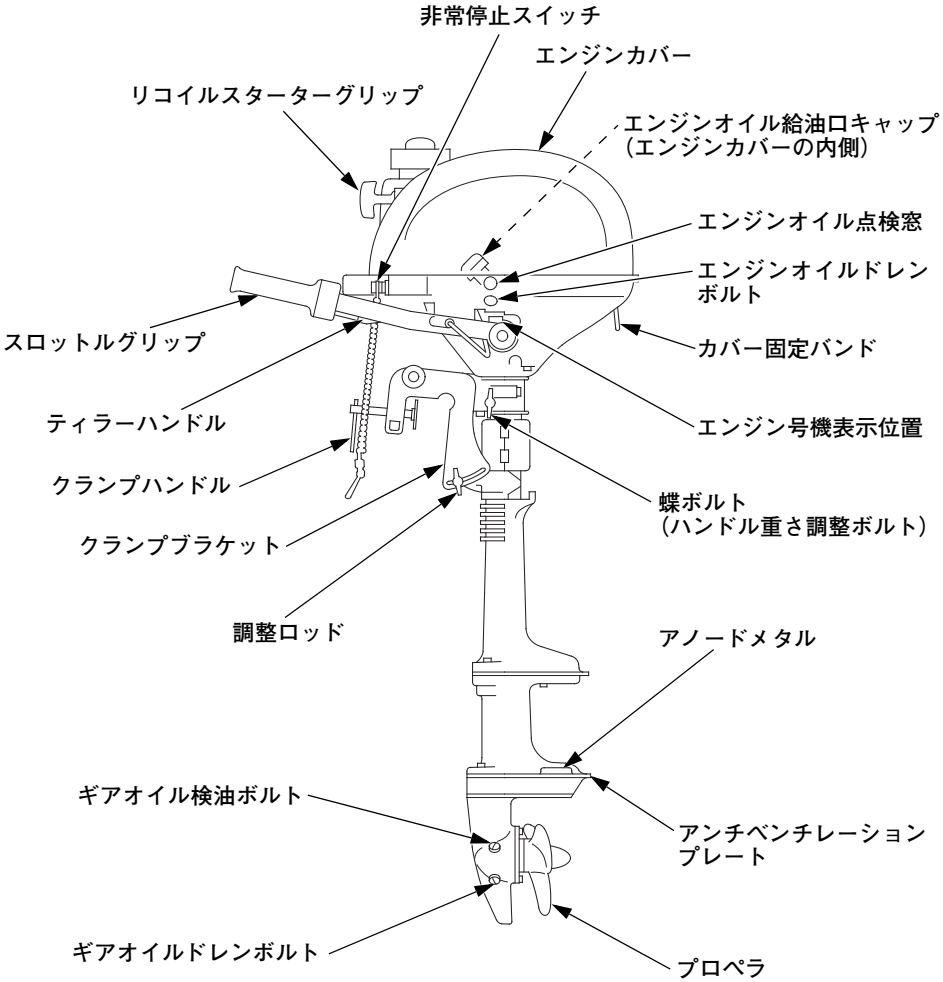
- **あなたご自身が行うお出かけ前の点検（出航前点検）。**
- **お買いあげ販売店またはサービス指定店があなたに代って行う定期点検。また経年変化により劣化する部品を定期的に交換する整備があります。**

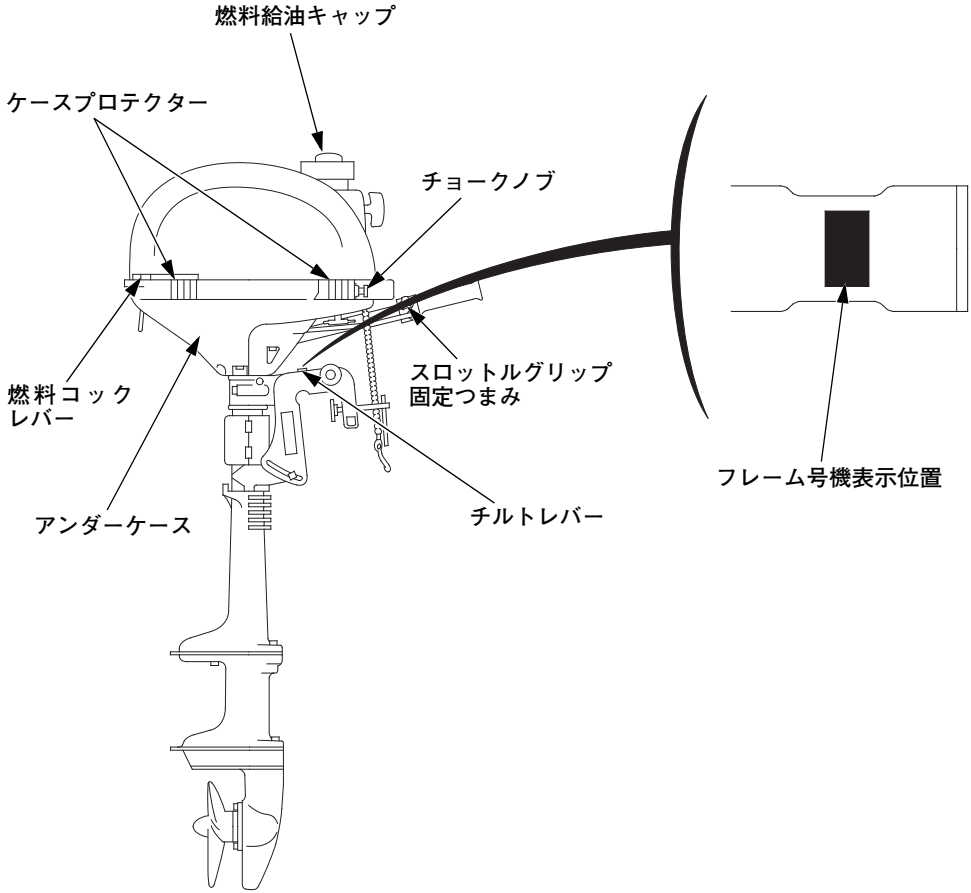
  点検整備を行ったときは、販売店またはサービス指定店で巻末の点検整備記録表に記入してもらってください。
- **船舶検査証書の交付を受けた場合は、船舶安全法に基づいて法定検査があります。**



正しい点検・整備を受けて安全、快適なボーティングを楽しみましょう。

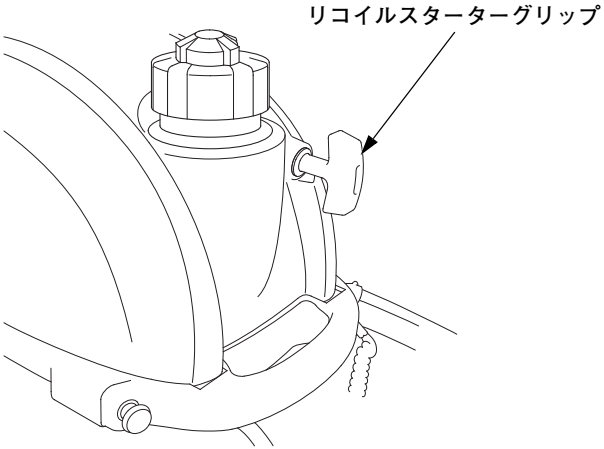
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




燃料給油キャップ
ケースプロテクター
チョークノブ
スロットルグリップ
固定つまみ
燃料コック
レバー
アンダーケース
チルトレバー
フレーム号機表示位置

リコイルスターターグリップ

船外機を始動する装置です。

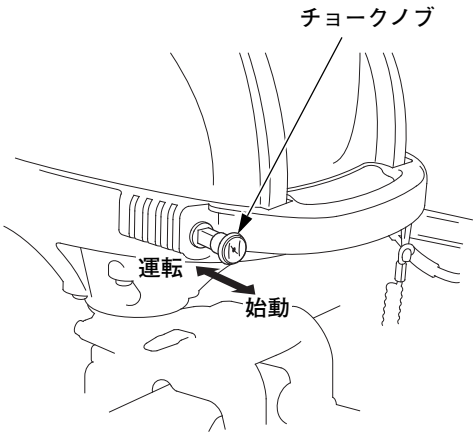


チョークノブ

エンジンが冷えているとき、操作します。

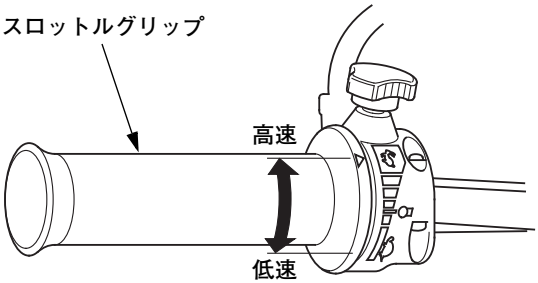
押す：運転

引く：始動



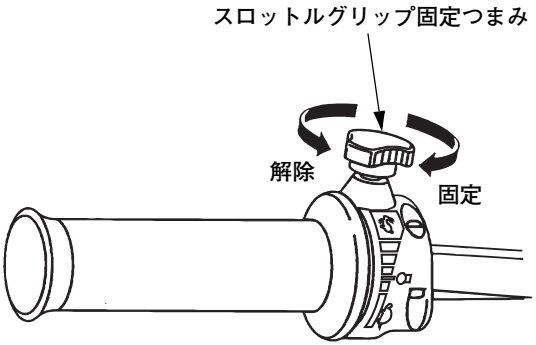
スロットルグリップ

エンジンの回転を調節するものです。始動時、運転中、停止時に操作します。
矢印の方向にまわすと回転が上がります。



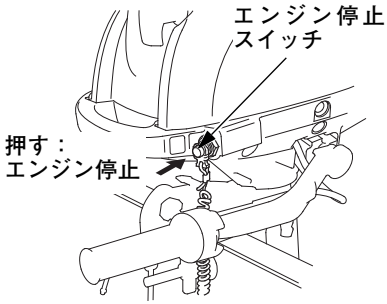
スロットルグリップ固定つまみ

スロットルグリップを固定して、航走したいときに操作します。
スロットルグリップが自動的に戻らない程度に締付けてください。



エンジン停止スイッチ

エンジンを停止させるときに操作します。



非常停止スイッチ

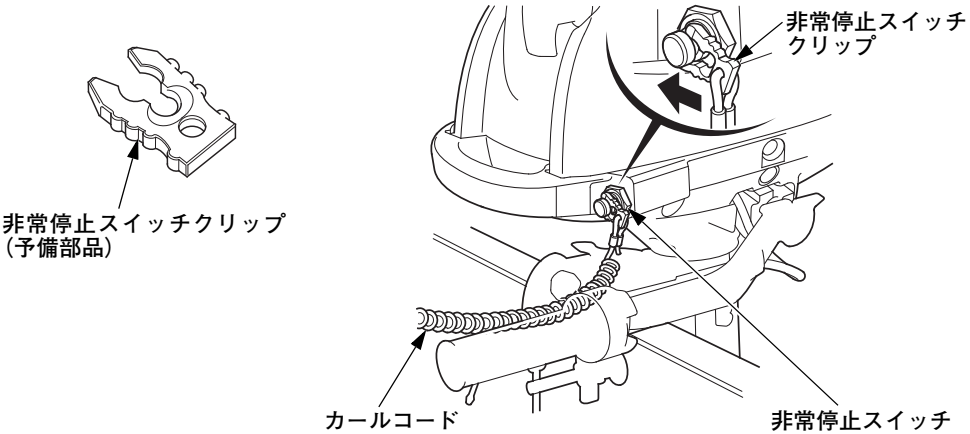
運転者が万一水中に落ちたり、操作位置から離れたとき、自動的にエンジンを停止させる装置です。

クリップがスイッチから引き抜かれると、エンジンは停止します。

運転中は、カールコードを運転者の身体の一部にしっかりと取付けておいてください。

非常停止スイッチクリップ（予備部品）が工具袋に入っています。

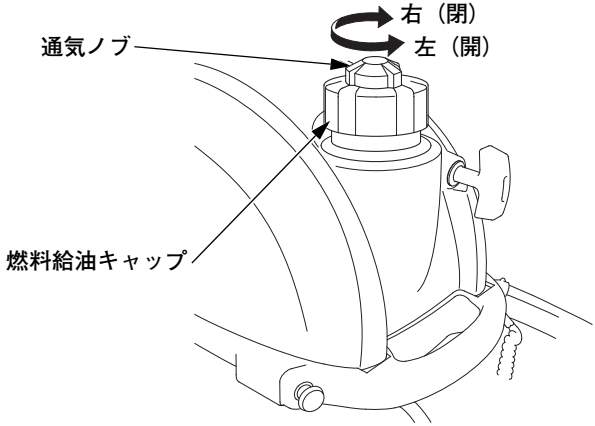
- **クリップが非常停止スイッチに取付けられていないとエンジンは始動しません。**
- **非常停止スイッチクリップ（予備部品）があることを確認してください。クリップを紛失しないようご注意ください。**
- **カールコードが周囲の機器などに引っかからないようにしてください。カールコードの引っかかりによりクリップが外れ、急減速の可能性があります。急減速すると同乗者など転倒するおそれがあります。**



燃料給油キャップ／通気ノブ

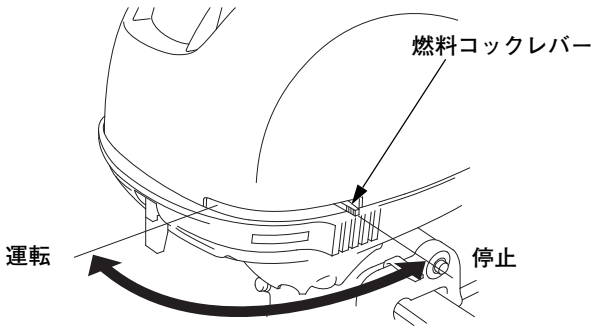
通気ノブは燃料タンク内を大気としゃ断したり、通気したりする装置です。燃料を補給するときは、通気ノブを**左（開）**の方向に２～３回転まわしてから燃料給油キャップを外してください。

・**運搬、保管時には通気ノブを右（閉）の方向にまわし確実に締めてください。**



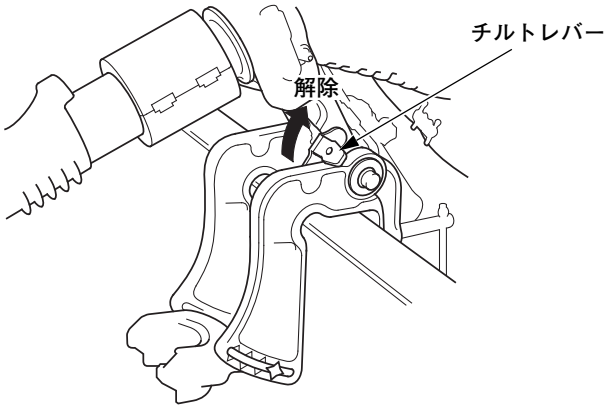
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“**運転**”、“**停止**”の位置に合わせてください。



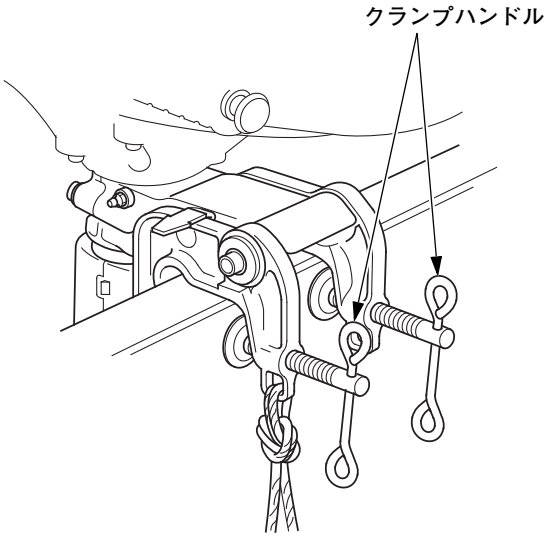
チルトレバー

船外機をチルトアップの状態に保持します。
船外機を使用状態に戻すときに操作します。
船外機のチルトアップは浅瀬に係留および停泊するときに行います。（38 頁参照）



クランプハンドル

トランサムボード（船の取付け板）に船外機を取付け固定するときに操作します。

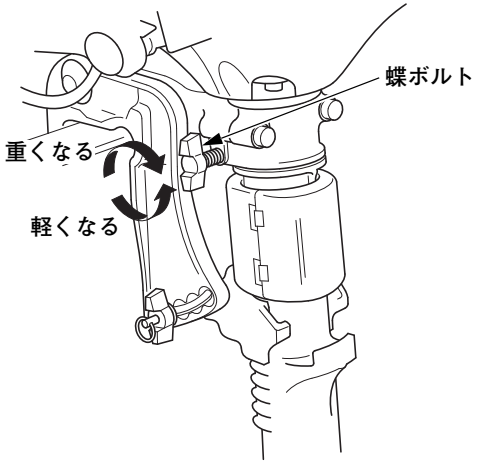


蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト）

ハンドルの重さはスイベルケースの蝶ボルトを回転させることにより、簡単に調整できます。

重くしたいとき→右にまわす（時計方向）

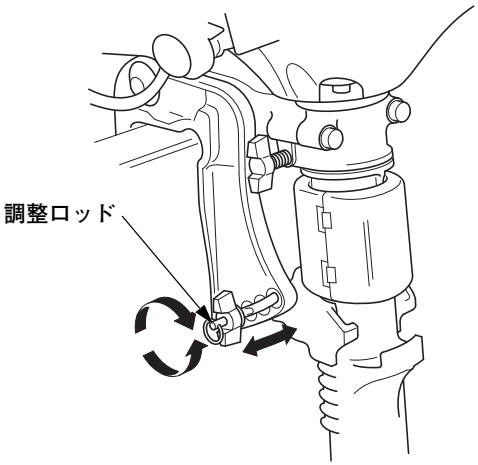
軽くしたいとき→左にまわす（反時計方向）



調整ロッド

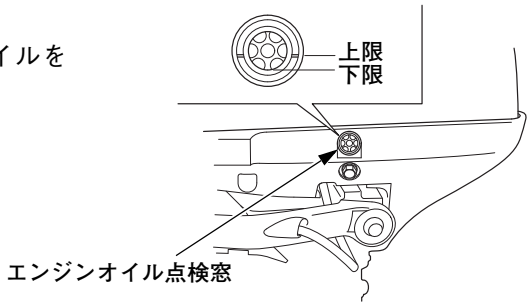
航走姿勢が適正になるよう調整するときに使用します。（24 頁参照）

調整段数：4 段



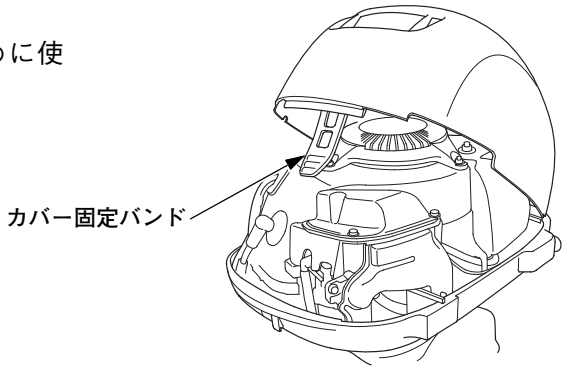
エンジンオイル点検窓

エンジンを停止した状態で、オイルを点検するものです。



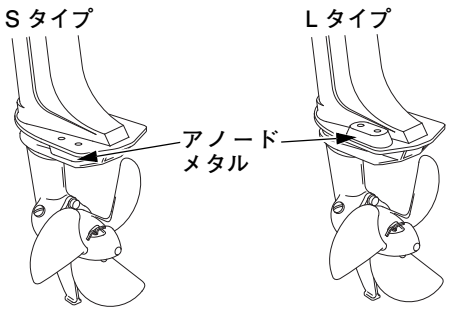
カバー固定バンド

エンジンカバーを固定するために使用します。



アノードメタル

アノードメタルは船外機を腐食から守る犠牲金属です。



取扱いのポイント

- アノードメタルの表面に塗装などをしないでください。犠牲金属としての効果がなくなり、船外機が錆びたり腐食する原因になります。
- アノードメタルが３分の１以上減ったら新品と交換してください。

船外機の正しい取付けかた

船外機を正しく取付けないと、脱落したり、直進性を失ったり、スピードが出なかったり、水をかぶったり、燃料消費量が多くなったりします。船外機の取付けは正しく行ってください。

適応ボート

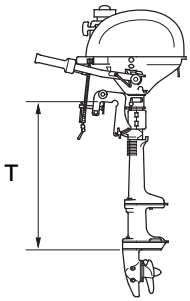
エンジン出力に適応するボートをお選びください。一般にはボートに推奨馬力が表示されています。

⚠警告

エンジンの出力に合わせてボートを選定してください。指定出力を超えるエンジンを搭載すると、操縦が不安定になり転覆する危険があります。

トランサム高さ

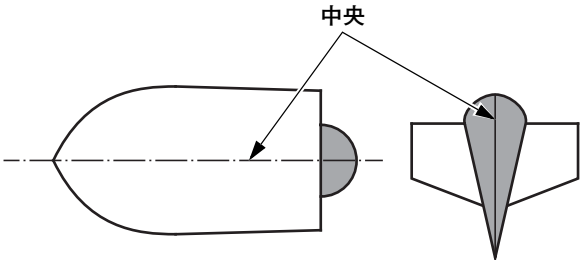
船（ボート）のトランサム高さに合わせて船外機を選びます。（図は L タイプ）



タイプ	T （トランサム角 5° 時）
S	418 mm
L	571 mm

取付け位置

船尾の船幅中央に取付けます。



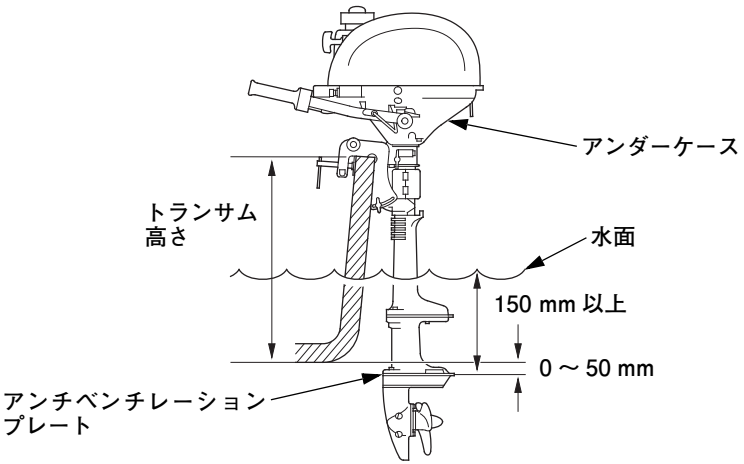
取付け高さ

ボートのトランサム上端から船底までの距離をトランサム高さといいます。

ボートに乗船した状態で、水面からアンチベンチレーションプレートまでの寸法を 150 mm 以上にし、またアンチベンチレーションプレートが船底の延長線に対し下記の寸法になるようにボートのトランサム高さを調整してください。

標準寸法：0 ～ 50 mm（船底の延長線から－ 50 mm 以内）

ボートの種類や船底の形状などにより、取付け高さが変わります。ボートメーカーの推奨取付け高さに合わせ、試走して最良の取付け高さを決めてください。



船外機の取付けが高すぎる場合は、高い波や旋回時にベンチレーションを起こし、スムーズな航走ができなくなります。

取扱いのポイント

船外機の取付け位置が極端に低いと、エンジンアンダーケース内に水が侵入して悪影響を与える場合があります。取付けにあたっては、最大積載状態でエンジンを停止したときエンジンアンダーケースに波、しぶき等がかからないように水面から十分高い位置にあることを確かめてください。

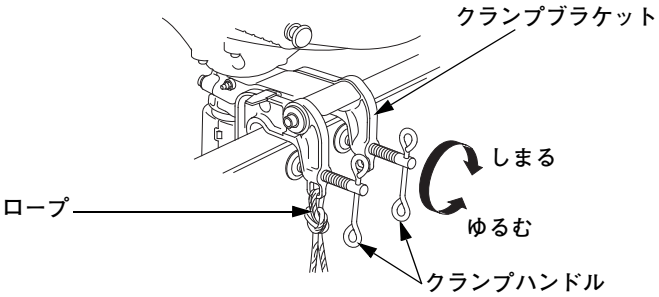
船外機の取付け高さが適正でないと下記の症状が発生します。

取付け高さ	症状
高すぎる	プロペラベンチレーションが起こり易くなり下記の症状が発生します。 ・ スムーズな航走ができなくなる ・ 騒音が大きくなる
低すぎる	水の抵抗が大きくなり下記の症状が発生します。 ・ 高速走行性が悪くなる ・ 操縦安定性が悪くなる ・ 船尾に扇状のスプレー（飛沫）が揚がり、船内に水が浸入する ・ 操舵荷重が重くなる ・ 燃料消費量が多くなる

取付けかた

クランプブラケットをトランサムボード（船の取付け板）にはめ、運転中にゆるまないようにクランプハンドルをしっかり締付けてください。

クランプブラケットにロープを結び、一方を必ず船体に結んでください。



⚠注意

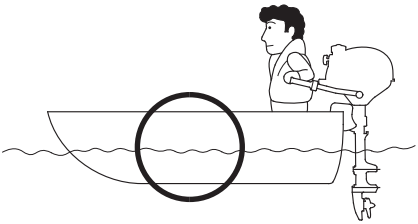
クランプハンドルは確実に締付けてください。締付けがゆるいと船外機を水中に落とすおそれがあります。動力を失ったボートは操縦が不能になり危険です。

取付け角度（角度の調整）

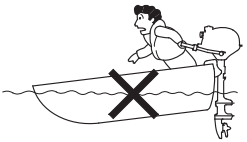
⚠警告

取付け角度が適正でないと、操縦性や安定性が悪くなり、事故につながる可能性があります。操縦性や安定性に異常を感じたら、ボートを停止して取付け角度の再調整を行ってください。

船が航走しているとき、船外機のアンチベンチレーションプレートが水面と平行になるように取付けてください。



へさきが上がり、へさきが極端に振られる。

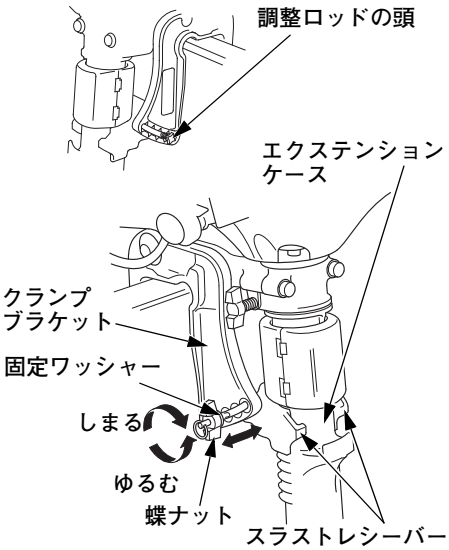


へさきが沈み、波が異常にたち、水をかぶります。

〈調整のしかた〉

1. 調整ロッドの蝶ナットをゆるめて、固定ワッシャー、調整ロッドの頭をクランプブラケットの穴から引出します。
2. スラストレシーバーを動かして、船外機が適正な取付け角度になるような位置で止め、固定ワッシャー、調整ロッドの頭をクランプブラケットの穴に押し込みます。

   調整段数：4 段
3. 蝶ナットを確実に取付けます。
   調整後、固定ワッシャー、調整ロッドの頭が確実にクランプブラケットの穴に入っていることを確認してください。



お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう

本機は 4 ストローク空冷エンジンです。使用燃料は無鉛ガソリンです。また、エンジンオイルも必要です。お出かけ前には、つぎの点検を必ず行ってください。

⚠注意

お出かけ前の点検は必ずエンジンを停止して行ってください。

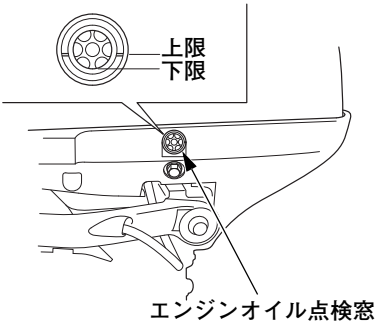
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

エンジンオイルの点検

〈点検のしかた〉

1. 本機を垂直にします。
2. エンジンオイル点検窓の上限と下限の間に油面があることを確認します。
   - 油面が見えない場合や下限に近い場合は、補給してください。
   - 汚れや変色が著しい場合、エンジンオイルを交換してください。
     （エンジンオイルの交換は 46 頁参照）

   エンジンからエンジンオイル漏れがないことを確認してください。



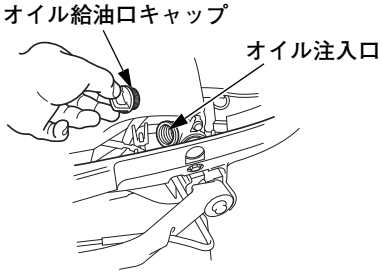
特定の使用状況下で、次のような場合があります。

- エンジンオイルが増加している場合、エンジンオイルを交換してください。
- エンジンオイルが白濁している場合、エンジンオイルを交換してください。

使用状況	現象	症状	結果
運転時間が 5 分間以下でエンジンを始動・停止を頻繁に繰り返した場合	エンジンが温まらない	• 未燃焼ガソリンがオイルに混入し、エンジンオイルが増える • エンジン内部に結露が発生し、エンジンオイルが白濁する	エンジンオイルが劣化し、潤滑性能が低下して、本機の故障原因となる場合がある
使用時間の30%以上をエンジン回転数 3,000 rpm 以下で使用した場合			

〈補給のしかた〉

1. エンジンカバーを外します。
2. オイル給油口キャップを外し、エンジンオイル点検窓の上限まで新しいエンジンオイルを注入します。



〈推奨オイル〉

API 分類 SG、SH、SJ、SL 級相当の SAE 10W-30 エンジンオイル

取扱いのポイント

- オイル給油口キャップは、手で確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- オイルを入れすぎないよう、注入後必ずオイルの量を確認してください。オイルが少ないときはもちろんですが、入れすぎもエンジンの故障の原因になります。

燃料の点検

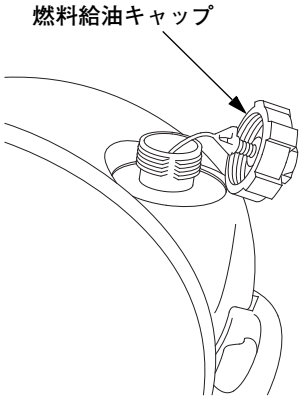
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大ケガや死亡事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは

- 火気を近付けないでください。
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンを注入口の口元まで入れないでください。タンク内の空気やガソリンが膨張して、燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておくと、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

〈点　検〉

燃料の量は、燃料給油キャップを外し、燃料があることを確認します。

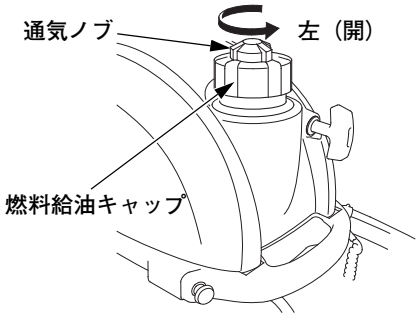


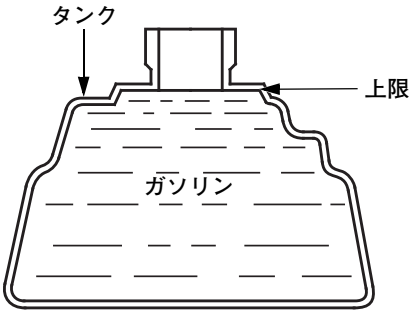
〈補給のしかた〉

使用燃料：無鉛ガソリン

タンク容量：1.1 L

通気ノブを左(開)の方向に2～3回転まわしてから燃料給油キャップを外します。補給は燃料をこぼさないようにゆっくり燃料タンクの上限まで補給してください。





給油後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

船外機を運搬したり保管する場合は、通気ノブを右（閉）の方向にまわし、確実に締めてください。

取扱いのポイント

- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

その他の点検

安全な運転をしていただくために、つぎのことも忘れずに点検してください。

(1) プロペラ、シャーピン、割ピンの損傷、取付け状態
（プロペラ、割ピンについては、51 頁参照）

(2) ハンドルのゆるみ、がた、操作具合

(3) クランプブラケットの損傷

(4) 予備部品の有無、携帯していることの確認（45 頁参照）

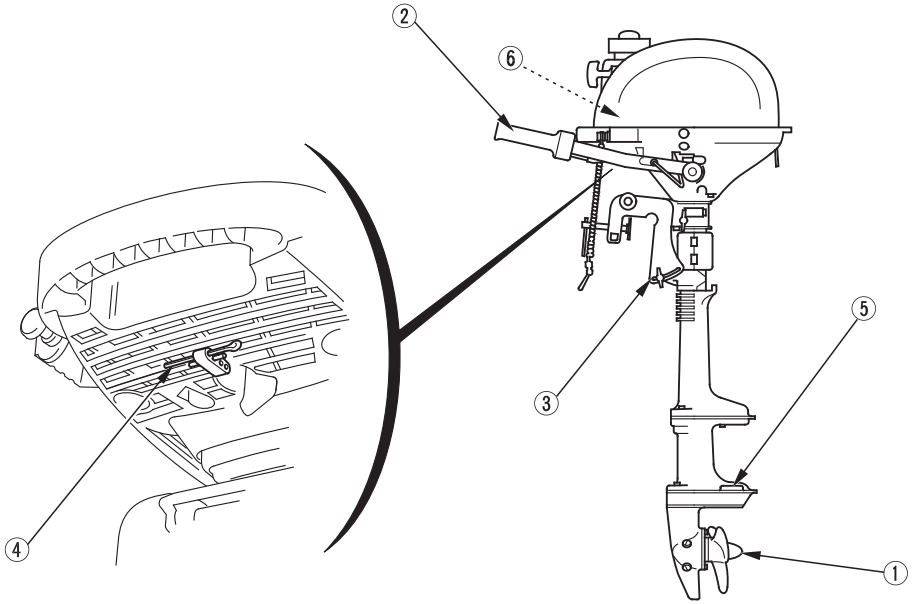
(5) アノードメタルの損傷、腐食、がた

(6) 燃料ホースなどからの燃料漏れ、亀裂

・非常停止スイッチの操作具合（30 頁参照）

・付属工具の有無、携帯していることの確認（45 頁参照）

・非常停止スイッチ予備クリップの有無、携帯していることの確認（45 頁参照）



エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

⚠警告

排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。ボートハウスなどの換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。

取扱いのポイント

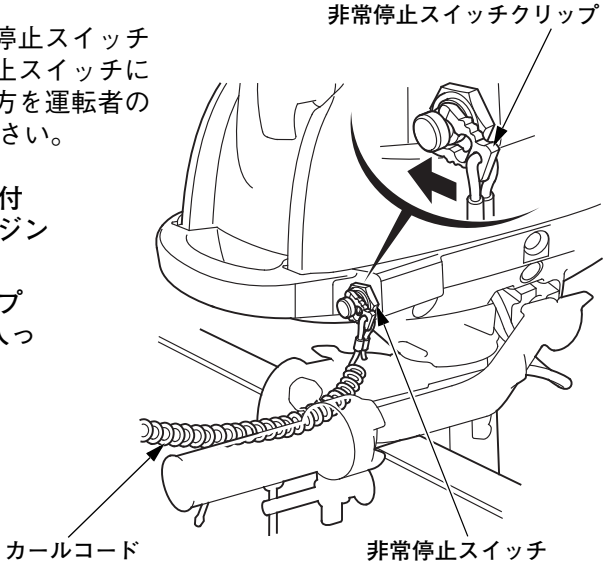
エンジンをかけるときは、必ず通常使用状態（プロペラが水中にある状態）で行ってください。絶対に水無しでは始動しないでください。本機を破損します。

出航前に必ず非常停止スイッチの点検をおこなってください。

- エンジンをかけた状態で、非常停止スイッチクリップを抜き、エンジンが停止することを確認してください。
  エンジンが停止しないときは、販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。

1. カールコードの先端（非常停止スイッチクリップ）を確実に非常停止スイッチに取付け、カールコードの一方を運転者の身体の一部に取付けてください。

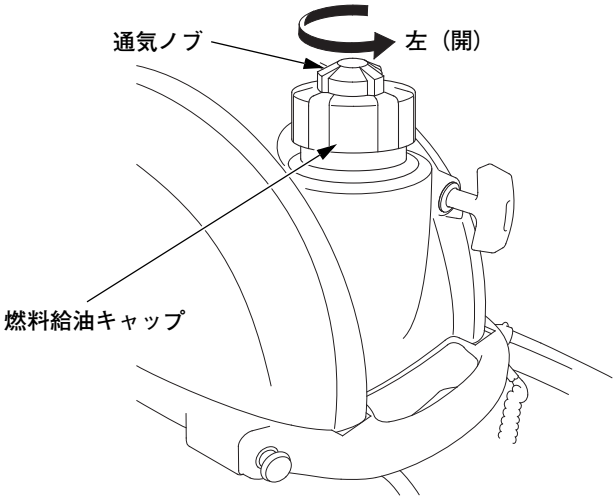
   - **クリップがスイッチに取付けられていないと、エンジンは始動しません。**
   - **非常停止スイッチクリップ（予備部品）が工具袋に入っています。**



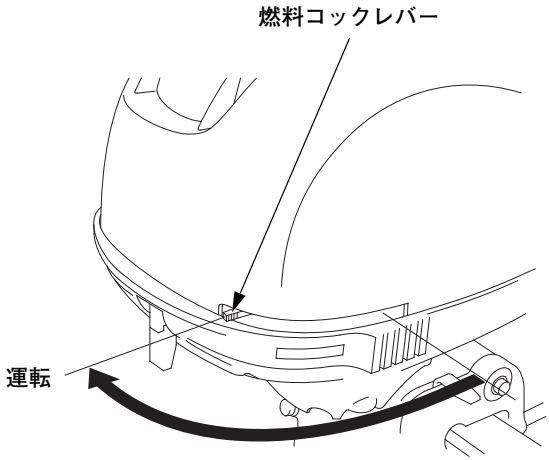
⚠警告

航走中は必ずカールコードを運転者の身体の一部につけておいてください。落水したとき、エンジンが止まらずボートが暴走し運転者や乗客、そして付近にいる人々に重大な傷害を負わせる可能性があります。

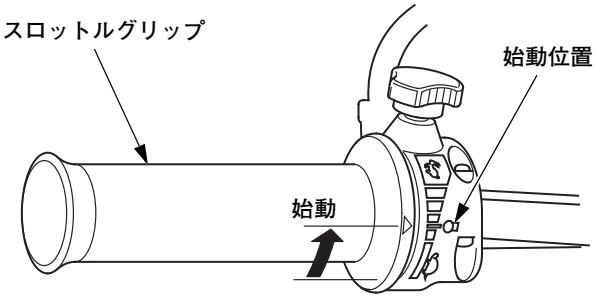
2. 燃料給油キャップについている通気ノブを**左（開）**の方向に２～３回転まわしてゆるめます。



3. 燃料コックレバーを **“運転”** の位置にします。



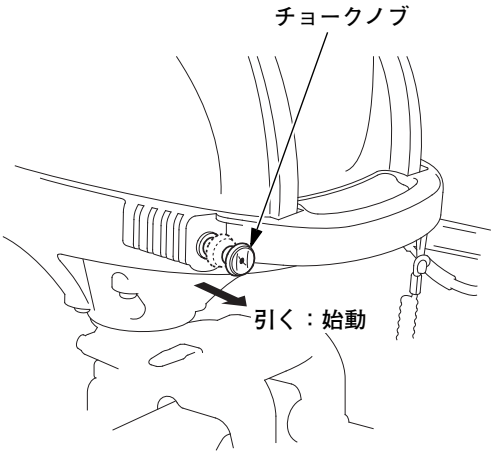
4. スロットルグリップを “始動” の位置にします。



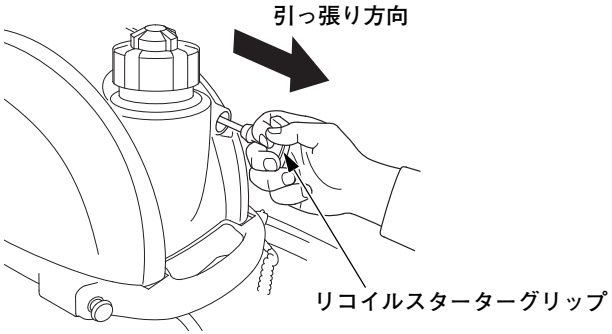
⚠警告

スロットルグリップは、必ず “始動” の位置にしてください。スロットルを “始動” の位置より “高速” 側にすると、エンジン始動後エンジン回転が上がりすぎ、船が飛び出すおそれがあります。

5. エンジンが冷えているときや外気温が低いときはチョークノブを引きます。



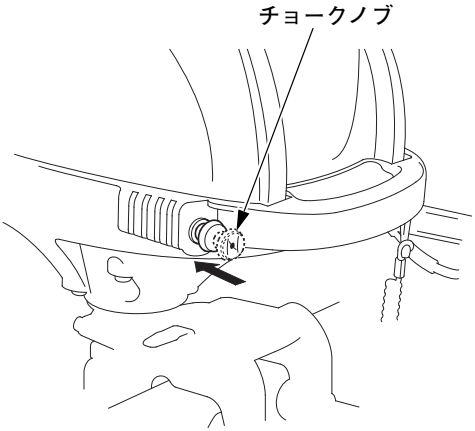
6. リコイルスターターグリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



取扱いのポイント

- **リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置を破損することがあります。**
- **運転中はリコイルスターターグリップを引かないでください。始動装置に悪影響をあたえます。**
- **船外機は、船体に対し真直ぐに向けて始動してください。**

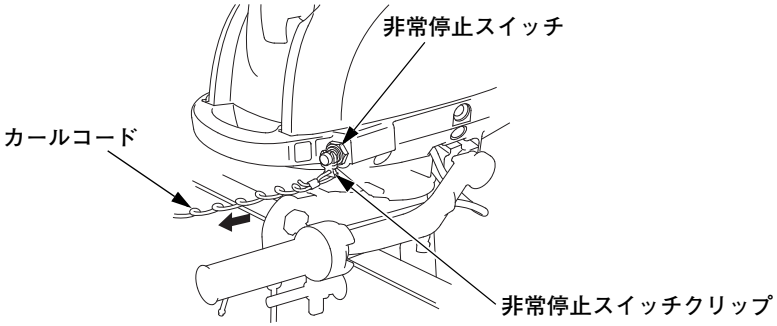
7. 2～3分間暖機運転を行います。
チョークノブを操作した場合は、エンジンの回転の安定を維持させたままチョークレバーを徐々に元の位置に戻してください。



エ　ン　ジ　ン　の　と　め　か　た

緊急停止の場合

非常停止スイッチのカールコードを引き、非常停止スイッチクリップが引き抜かれるとエンジンが停止します。

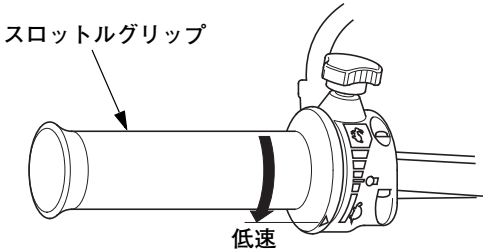


通常停止の方法

1.スロットルグリップを “低速” の位置にします。

取扱いのポイント

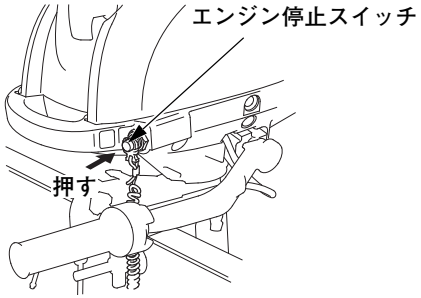
エンジン停止前に、数分間アイドリング状態にして、エンジンを冷やしてからエンジンを停止してください。



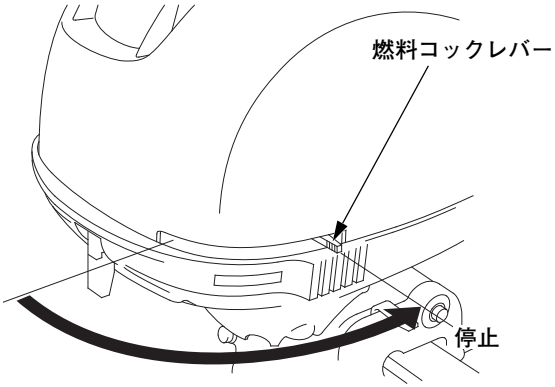
2.エンジンが停止するまで、エンジン停止スイッチを押し続けます。

取扱いのポイント

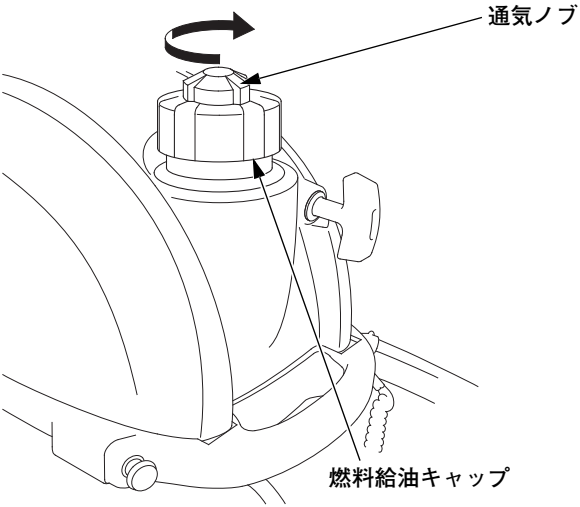
万一スイッチを押し続けても止まらない場合は、燃料コックレバーを “停止” にし、チョークノブを引いて止めてください。



3.燃料コックレバーを “ **停止** ” の位置にします。



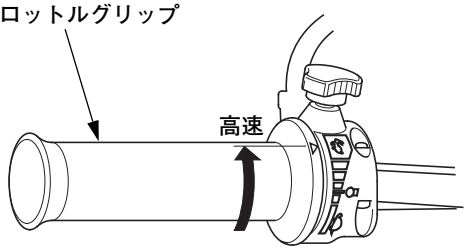
4.燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。



運　転　操　作　の　し　か　た

走りかた

スロットルグリップを “高速” の方向に動かすとスピードが上がります。一般にスロットルは全開にせず 80% 程度で走るのが経済的とされています。



⚠警告

- エンジンカバーなしで航走しないでください。カバーを外して航走するとむき出しになって動いている部品によって、ケガをすることがあります。また、エンジンに水がかかると故障の原因になります。
- 不必要な急加減速やジャンプはできるだけ避けてください。同乗者が転倒したり、落水する可能性があります。

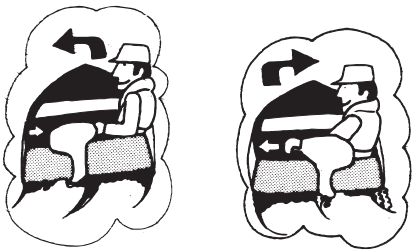
かじ取り

ボートは、曲がる反対方向に大きく船尾をふり出すのが特色です。右に曲がるときはハンドルを左に、左に曲がるときはハンドルを右に切ります。

航走中は、ハンドルに体重をかけないように注意しましょう。

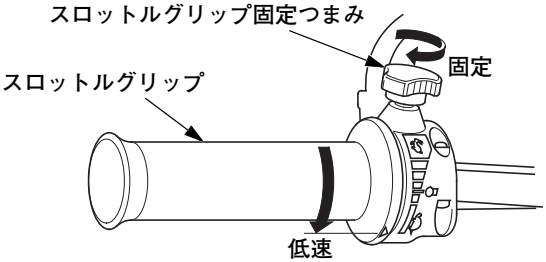
⚠警告

緊急時以外の急旋回は、行わないでください。急旋回は、落水、転覆のおそれがあります。



後進のしかた

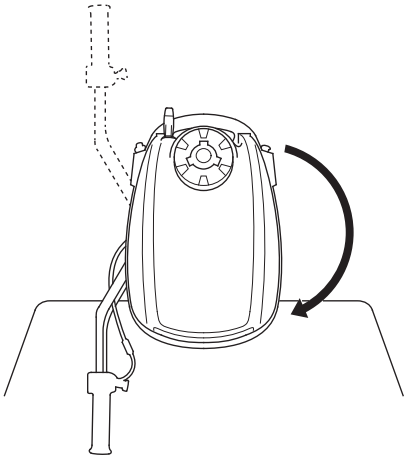
1. スロットルグリップを “**低速**” の位置にして、エンジン回転数を下げます。
   スロットルグリップ固定つまみを右にまわし、スロットルグリップを “**低速**” の位置で固定します。



⚠警告

前進から後進、後進から前進に変えるときは、必ずエンジン回転を一杯まで下げて行ってください。

2. 船外機を 180°（半周）回転させます。次にハンドルを反転させます。
   ハンドルを反転させるとき、スロットルグリップを持たないでください。



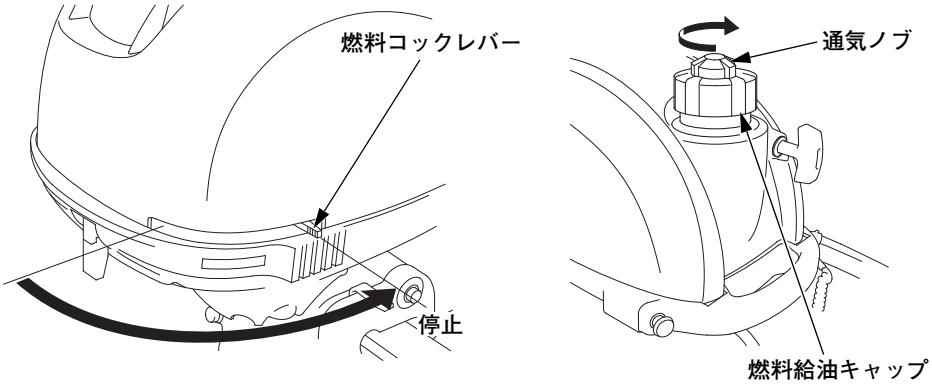
⚠警告

後進はできるだけエンジン回転数を下げて行ってください。
回転を上げすぎると転覆するおそれがあります。

チルトアップのしかた

エンジンを停止し、つぎに使用するまでの間、浅瀬に係留するときなど、岩や引き潮により、プロペラ、ギアケースを破損することがありますので、エンジンを傾斜させ（チルトアップ)、プロペラを水面より上げておきます。

1. エンジンを停止させ、燃料コックレバーを “ **停止** ” の位置にして、燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。



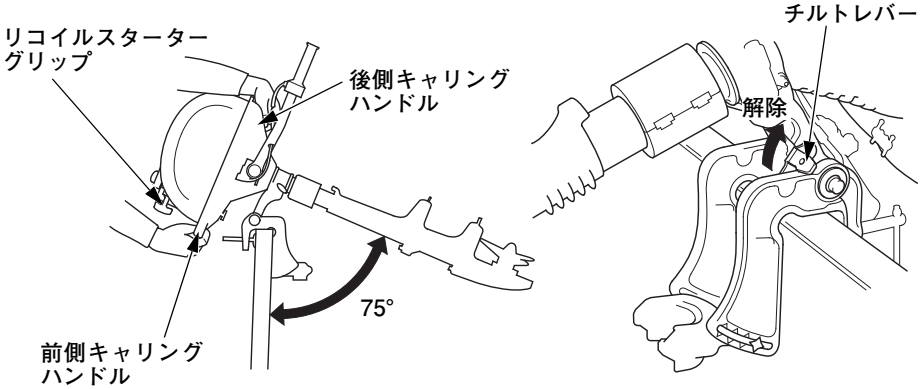
2. リコイルスターターグリップを下側にして前後のキャリングハンドルを持ち、チルトレバーがカチッと音をたてて固定されるまで、機体を持ち上げます。

   チルト角度：1 段（75°)

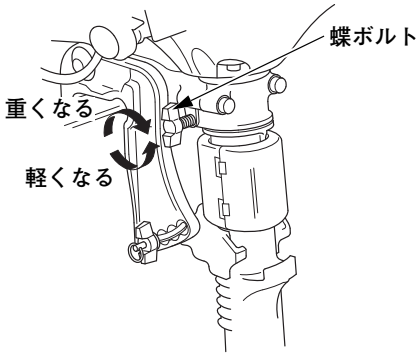
取扱いのポイント

- **ハンドルやエンジンカバーを持って､チルトアップを行わないでください。**
- **指定以外の方向でチルトアップすると、エンジンオイルが漏れたり、燃焼室内に入りエンジンが不調になるおそれがあります。**

使用状態にするときは、後側キャリングハンドルを持ち、機体を一旦持ち上げてからチルトレバーを解除し、静かに降ろしてください。

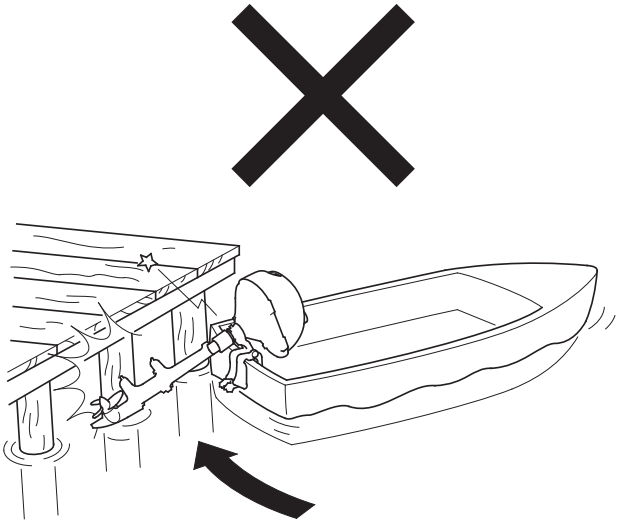


3. 船外機が自由に回転しないように、蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト）を締付けます。
重くしたいとき
→右にまわす（時計方向）
軽くしたいとき
→左にまわす（反時計方向）



取扱いのポイント

係留時、チルトアップした状態で、船外機を桟橋や他船等に衝突させないよう注意してください。



運　搬　の　し　か　た

船外機を運搬するときは、必ずキャブレター内の燃料を抜いてください。
（58 頁参照）

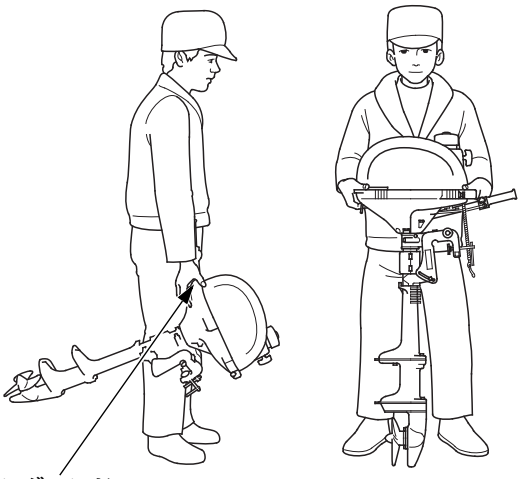
船体から船外機を外した状態で運搬を行う場合

・手で持っての運搬

・持ち運びするときは、キャリングハンドルを持って行ってください。

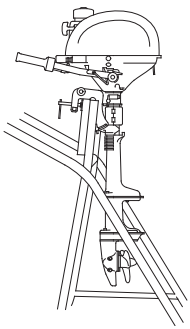
⚠注意

エンジンカバーを持って運搬しないでください。カバーが外れて落下すると思わぬケガをするおそれがあります。



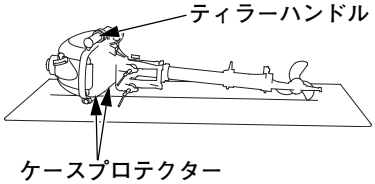
・立てた状態での運搬

・立てた状態での運搬はスタンド等を使用して右図のように行ってください。



・倒した状態での運搬

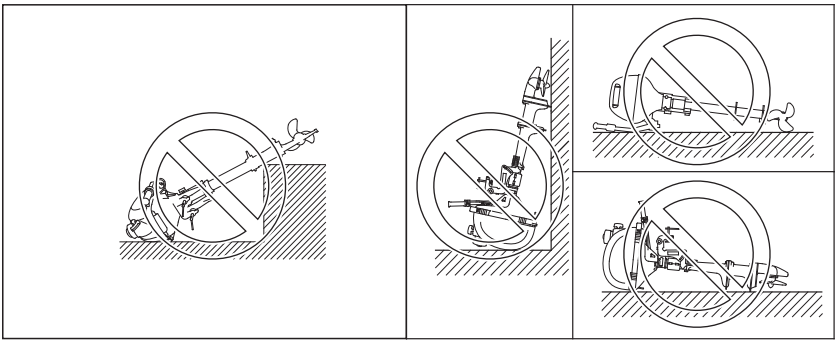
・横置き状態での運搬は、ケースプロテクターを下側にして（ティラーハンドルが上になるように）、ウレタンフォームや毛布などを船外機の下に敷いて損傷を受けないようにします。



取扱いのポイント

オイルが多い場合や下図のような状態で運搬はしないでください。オイル漏れの原因になります。

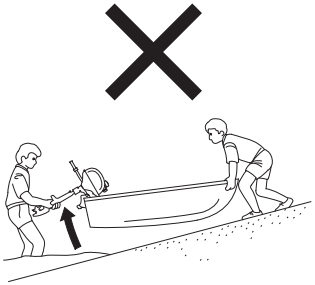
誤った取扱いをすると正規横置き状態に戻しても、オイルが漏れる場合があります。



船体に船外機を取付けた状態で運搬を行う場合

取扱いのポイント

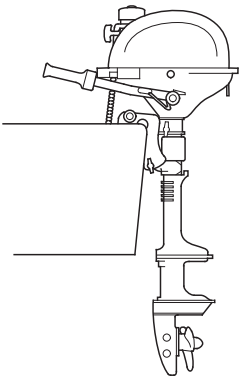
船体に船外機を取付けた状態で運搬を行う場合は、船外機を持たないでください。



- **トレーラー運搬時の注意**

・船外機を船体に取付けた状態で運搬する場合は、「通常の航走状態」で運搬してください。

通常の航走状態



・路面からの間隔が十分とれないときは、チルトアップ状態で運搬してください。
運搬時のチルトアップ状態は市販の専用機具を使用して保持してください。本機のチルトレバーでは固定しないでください。

路面からの間隔が十分とれないとき

市販の専用機具による保持

定　期　点　検　を　行　い　ま　し　ょ　う

お買いあげいただきましたHonda船外機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期（3）		作業前	初回 1ケ月又は 10時間 運転毎	6ケ月毎 又は 50時間 運転毎	1年毎 又は 150時間 運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○				25
	交換		○	○		46
ギアケースオイル	交換		○	○		48
スターターロープ	点検			○		53
キャブレターリンク	点検－調整		○（2）	○（2）		—
タペット隙間	点検－調整				○（2）	—
点火プラグ	点検－調整／交換			○		49
プロペラ、割ピン	点検	○				29
アノード	点検	○				29
アイドル回転	点検－調整		○（2）	○（2）		—
各部の油脂及びグリース	塗布		○（1）	○（1）		50
燃料タンク、タンクフィルター	清掃			○（2）		—
クラッチシュー、アウター	点検				○（2）	—
スイベルケースライナー、ブッシュ	交換	3年毎（2）				—
ウォーターシール	交換	3年毎（2）				—
燃料系統	点検	○（4）				29
	交換	2年毎（必要時交換）（2）（5）				—
各部の締付け	点検、締付け		○（2）		○（2）	—
クランクケースブリーザーチューブ	点検				○（2）	—
非常停止スイッチ	点検	○				30

(1) 海水の中で使用する時は頻繁に給油およびグリースを塗布してください。
(2) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお申し付けください。
(3) 点検時期はどちらか早い方で実施してください。
(4) 燃料ホースなどからの燃料漏れ、亀裂などを点検してください。不具合があれば直ちに販売店またはサービス指定店で修理を行ってください。
(5) 燃料ホースなどからの燃料漏れ、亀裂などを点検してください。不具合があれば交換してください。

※ 販売店またはサービス指定店で点検整備を行ったときは、巻末の点検整備記録表に記入してもらってください。

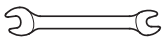
点　検　・　整　備　の　し　か　た

付属工具と付属部品

⚠注意

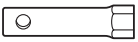
点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

付属工具と付属部品は、点検整備、応急修理にかかすことのできないものです。
いつも所定の場所に格納しておきましょう。



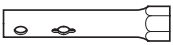
8×10 mm スパナ

⊖／⊕ドライバー



ボックスレンチ

工具袋

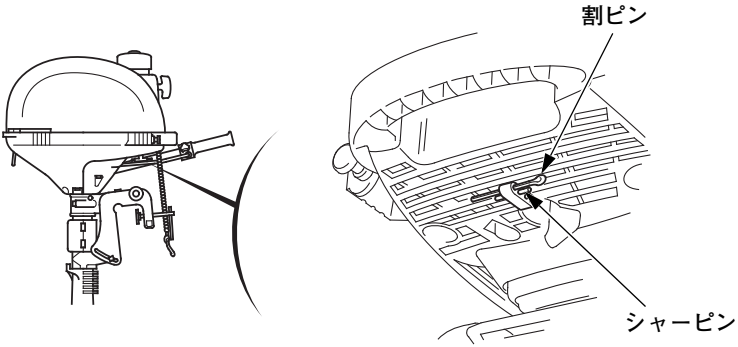


プラグレンチ

プライヤー

スターターロープ

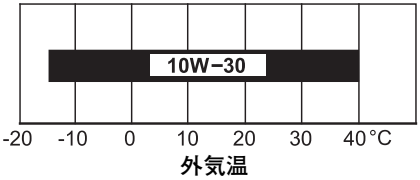
非常停止スイッチ
クリップ（予備部品）



エンジンオイルの交換

オイルが不足していたり、汚れていると摺動部や回転部分の寿命をいちじるしく縮めます。

〈推奨オイル〉API 分類 SG、SH、SJ、SL 級相当の SAE 10W-30 エンジンオイル



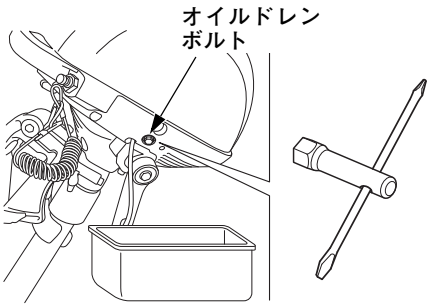
〈規定量〉0.25 L

〈交換のしかた〉

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や、油温が高くなっていますので、冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。
2. 燃料コックレバーを “ **停止** ” の位置にします。
3. 船体から船外機を取外します。
4. 同梱のボックスレンチを使ってオイルドレンボルトをゆるめ、船外機をハンドル側に傾けます。

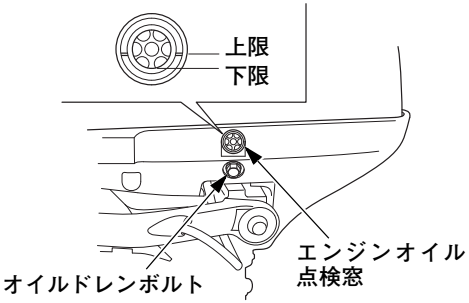


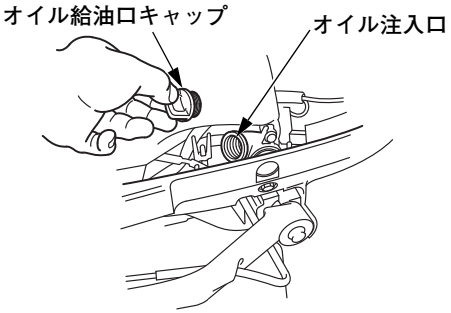
取扱いのポイント

船外機をハンドル側に傾ける前に、オイルドレンボルトを取外すと、オイルが本機にかかります。

5. オイルドレンボルトと O ーリングを外し、オイルを抜きます。
6. 新しい O ーリングをオイルドレンボルトに取付け、手で締付けます。
7. 船外機を垂直にします。
8. 同梱のボックスレンチを使ってオイルドレンボルトをしっかり締付けます。

   締付けトルク：6.5 N·m (0.7 kgf·m)
9. エンジンカバーを取外します。
10. オイル給油口キャップを外し、エンジンオイル点検窓の上限まで新しいエンジンオイルを注入します。
11. 船外機を数回ゆすってから、エンジンオイル点検窓の上限までエンジンオイルが入っていることを確認します。
12. オイル給油口キャップをゆるまないように確実に締付けます。
13. エンジンカバーを取付けます。
14. 船体に船外機を取付けます。





取扱いのポイント

- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **オイル給油口キャップは、手で確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **オイルを入れすぎないよう、注入後必ずオイルの量を確認してください。オイルが少ないときはもちろんですが、入れすぎもエンジンの故障の原因になります。**

ギアオイルの交換

ギアオイルが不足していたり、汚れていると回転部分の寿命を著しく縮めます。

〈指定オイル〉API 分類 GL-4, SAE 分類 90 番ハイポイドギアオイル

〈規定量〉　0.05 L

〈交換のしかた〉

1. オイル検油ボルト、オイルドレンボルトを外し、オイルを抜きます。
2. 新品のワッシャーをオイル検油ボルト、ドレンボルトにセットしておきます。
3. オイル検油ボルト孔からオイルが流れ出るまでオイルドレンボルト孔からオイルを注入します。

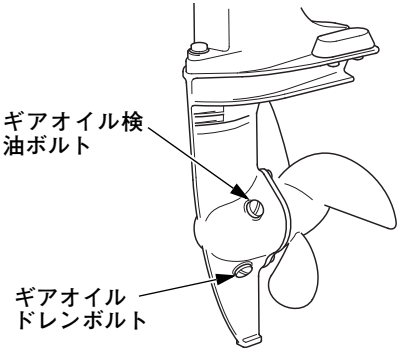
・注油は、別売部品のギアオイルボトルをご使用になりますと、より早く容易に行えます。

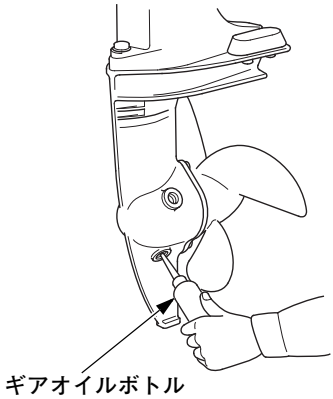
4. オイル検油ボルト、ドレンボルトをギアケースに取り付け、規定トルクで締付けます。

   規定トルク：

   3.5 N・m {0.35 kgf・m}

・ご自身で規定トルクが管理できないときは、お買い上げ販売店またはサービス指定店にご相談してください。



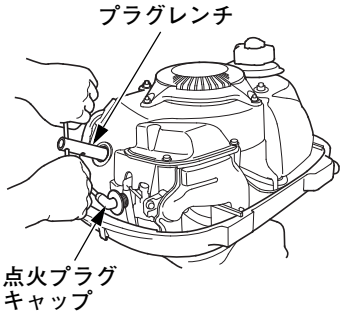


点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

停止直後のエンジンは高温になっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなります。

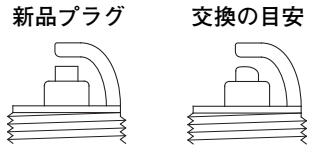


〈標準点火プラグ〉

LR4C-E (NGK)

〈清掃のしかた〉

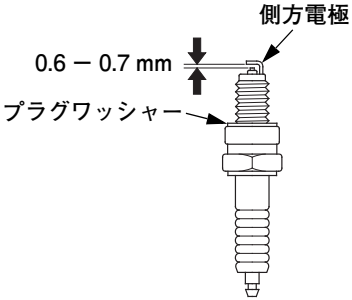
1. エンジンカバーと点火プラグキャップを外し、プラグレンチの穴に⊖／⊕ドライバーを通して、プラグレンチを回し、点火プラグを外します。
2. 点火プラグを点検します。
   1) 電極部分の汚れがひどい場合、ワイヤーブラシで点火プラグを清掃してください。
   2) 中央電極が異常に摩耗していたら交換してください。摩耗のしかたはプラグにより異なります。またプラグワッシャーが損傷していたり、絶縁部のひび割れ、欠けていたら交換してください。



〈調整のしかた〉

側方電極を曲げ、火花すき間を下記の寸法に調整します。

適正すき間：0.6 ー 0.7 mm



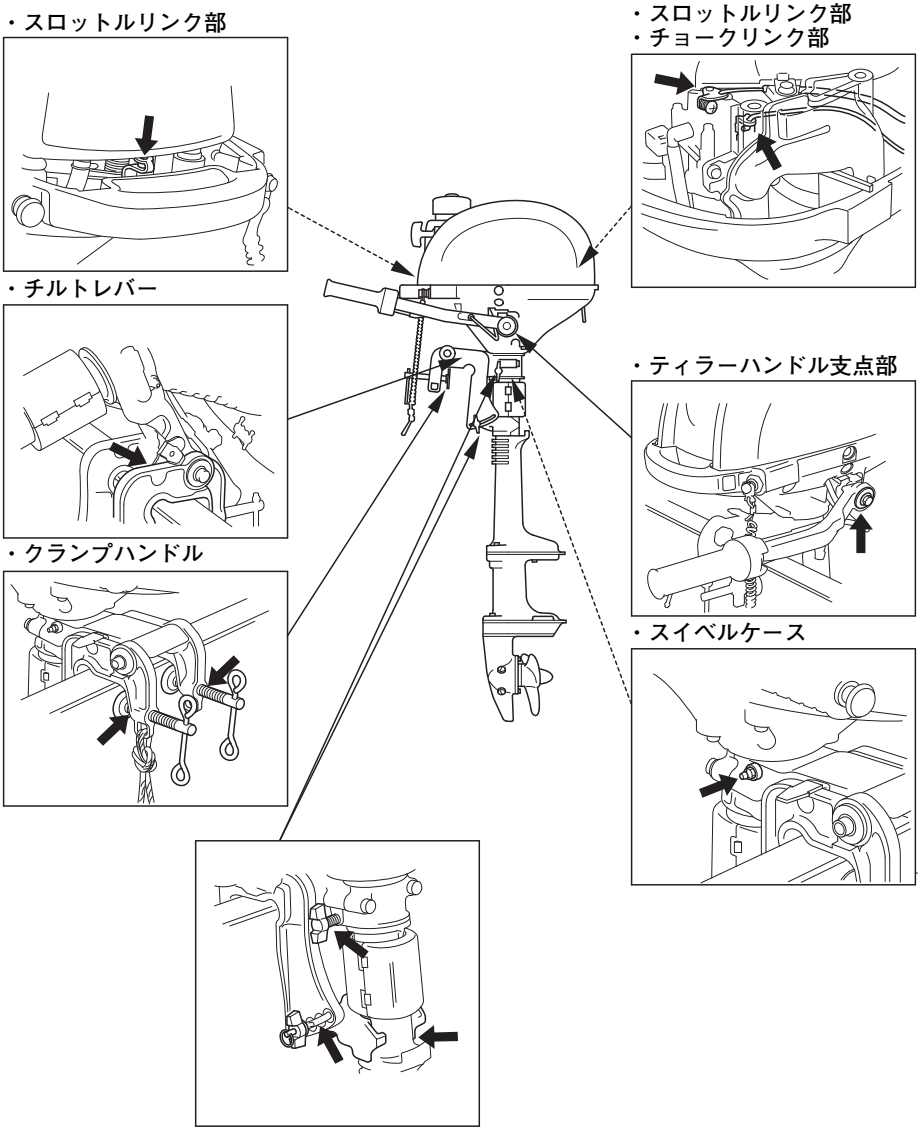
取扱いのポイント

- **点火プラグを組付けるときは、最初手で軽く一杯までねじ込んでからプラグレンチを使って締付けてください。**
  点火プラグ締付けトルク：12 N·m (1.2 kgf·m)
- **標準以外の点火プラグを使用しないでください。**

点検・調整・交換後、点火プラグキャップおよびエンジンカバーは確実に取付けてください。

耐水グリース給油箇所

矢印←の部分にグリースを塗布します。



プロペラの交換のしかた

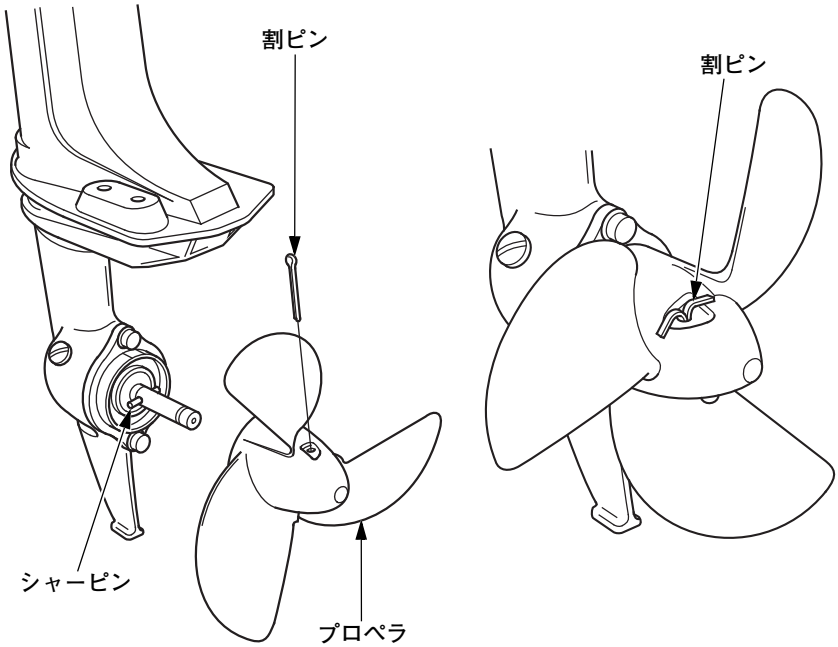
⚠警告

プロペラのブレードは薄く鋭利で、不用意に取扱うとケガをするおそれがあります。プロペラを交換するときやブレードに付着した異物を除去するときは

- **エンジンが始動するのを防ぐために必ず非常停止スイッチのクリップを外しておいてください。**
- **手袋等をして注意して行ってください。**

損傷の著しいプロペラはつぎの手順で交換してください。

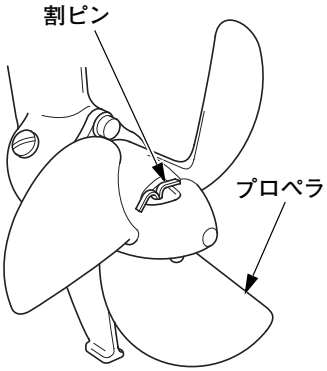
1. 割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラを取外します。
3. 取付けは逆の手順で行ってください。割ピンは新品と交換してください。
   シャーピンに曲がりや傷のある場合は新品と交換してください。

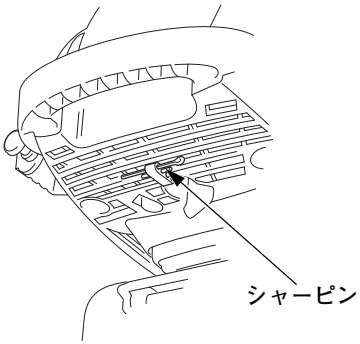


シャーピンの交換

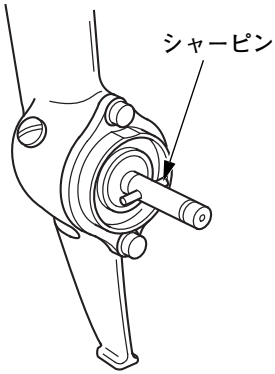
プロペラが岩、クイなどの障害物に当ったときに、プロペラ、および船外機内部を保護するためにシャーピンが入っています。

1. 割ピンを抜き、プロペラを外します。
2. 折れたシャーピンを抜き破片が残らないようにしてから、付属のシャーピンと交換します。





3. 交換後、シャーピンの向きに合せてプロペラを取付けます。割ピンは新しいものと交換し、取付け後は、必ず図のように曲げてください。
   シャーピンと割ピンは、たえず予備（純正部品）を携帯してください。



取扱いのポイント

シャーピン交換時、プロペラを水中に落とさないよう注意してください。

プロペラについての注意

プロペラは航走中高速回転をするため出航前にプロペラの傷、変形等を点検して異常のある場合は交換してください。

航走中の不測の事故に備えてスペアのプロペラを用意してください。

スペアのプロペラを携帯していない場合には低速で静かに帰り、プロペラを交換してください。

スターターロープの点検

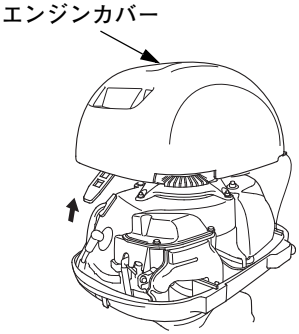
リコイルスターターグリップを引いた状態でスターターロープの摩耗、損傷がないことを目視で確認します。

異常のある場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談ください。

始動装置の故障

始動装置が故障した場合は、付属のスターターロープでエンジンを始動することができます。

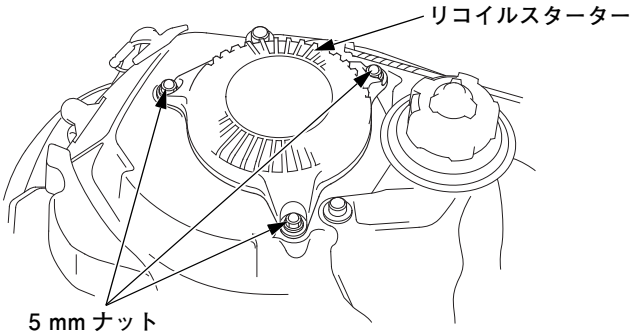
1. エンジンカバーを外します。



2. 5 mm ナット 3 個を外し、リコイルスターターとエンジンカバーをいっしょに取外します。

取扱いのポイント

リコイルスターターを取外すときは、チルトアップして、5 mm ナットを水中やエンジン内部に落とさないように注意してください。5 mm ナットはいったん締付けるか、確実に保管してください。

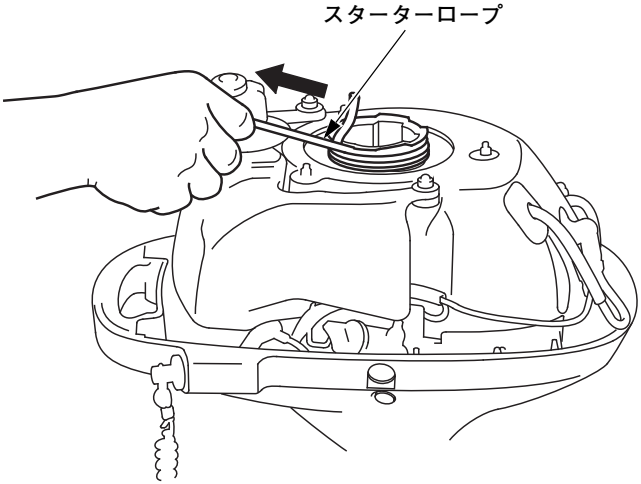


3. 付属部品のスターターロープの結び目をスタータープーリーの切り欠きに引っかけロープを溝にそって時計方向に巻き付けます。
4. スターターロープを引き、エンジンを始動します。
5. 回転部に気をつけて、エンジンカバーを本機に取付けてください。

⚠警告

むき出しになって動いている部品や高圧部分は、さわるとケガを引き起こすことがあります。

- **フライホイール等回転部に手、髪、衣類等を近づけないでください。**
- **高圧コードや点火プラグに触れないでください。**
- **エンジンカバーを取付けるときには回転部に十分に注意してください。**



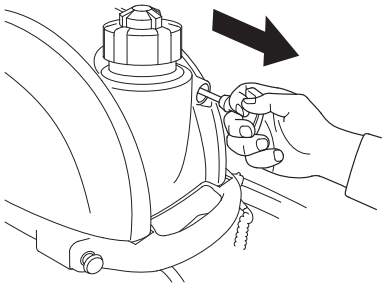
船外機が落水したとき

水没した船外機は、なるべく早く分解・整備を行ってください。

分解・整備を行うまでの処置として、つぎのことを行ってください。

1. 水没したら、直ちに引き上げ、塩分、泥、水草等を真水できれいに洗い落とします。

2. 点火プラグを外し、リコイルスターターグリップを数回引いてシリンダー内の水を完全に抜きます。

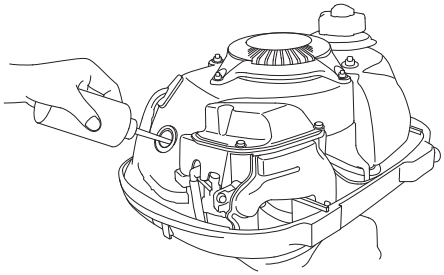


取扱いのポイント

必ず点火プラグを外してからリコイルスターターグリップを引いてください。

3. 点火プラグ穴からオイルを入れ数回リコイルスターターグリップを引いてシリンダー内にオイルをまわしておきます。

4. できるだけ早くお買いあげ販売店またはサービス指定店で分解・整備を行ってください。



エンジンがかからないとき
(故障のときは 60 頁を参照してください)

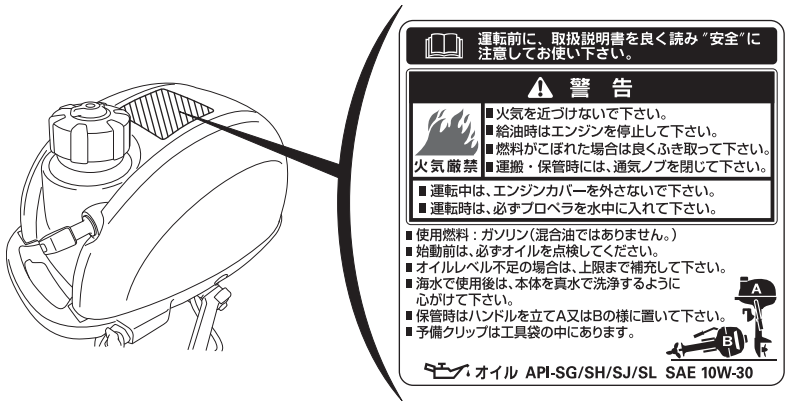
始動しないときは次の点を確めましょう。

- 燃料はありますか？
- 通気ノブは開いていますか？
- エンジンオイルは規定量ありますか？
- 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？
- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

保　管　の　し　か　た

保管は、本機に貼付されたラベルの説明文をよくご覧になって正しく行いましょう。



- 船外機を長持ちさせるために、来たるべきシーズンにそなえ、保管前にお買いあげ販売店またはサービス指定店で整備をお受けになることをおすすめします。
- 30日以上使用しない時は、燃料タンクとキャブレターの燃料を抜いてください。燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

清掃

海水、汚水で使用した後は、次の要領で清掃を行ってください。

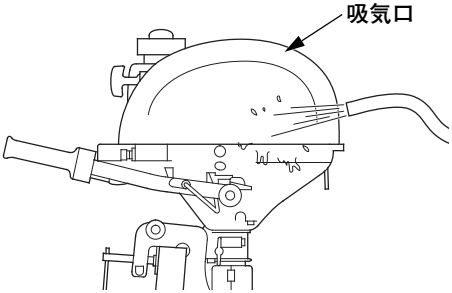
⚠警告

船外機がしっかりと固定されていることを確認してください。

- 外装の清掃はエンジンカバーを取付けた状態で行ってください。
  外装を真水で、ていねいに洗い、汚れ、塩分を落としてください。

取扱いのポイント

吸気口に水を吹きかけないよう注意してください。吸気口から内部に水が浸入すると故障の原因になります。



取扱いのポイント

清掃時に、エンジンカバー内部の電装部品、AC ジェネレーターなどに水や防錆剤がかからないように保護してください。水や防錆剤がかかるとエンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

- オイルを浸した布で外装を拭いてください。

燃料の抜きかた

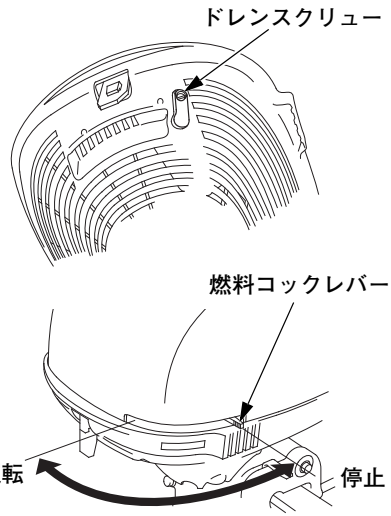
燃料タンクとキャブレターから燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。

⚠警告

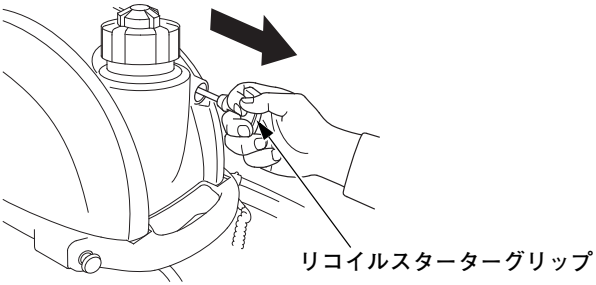
ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大ケガや死亡事故を引き起こすことがあります。

- **エンジンを停止してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **換気のよい場所で行ってください。**
- **ガソリンをこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。**

1. 燃料給油キャップを外して、燃料タンク内の燃料を抜きます。
2. 燃料コックレバーを“**運転**”の位置にし、キャブレターのドレンスクリューをゆるめてキャブレター内とタンクに残った燃料を容器に受けます。
3. 完全に燃料が抜けたらドレンスクリューを確実に締め付け、燃料コックレバーを“**停止**”の位置にします。
4. 燃料給油キャップを取付けます。



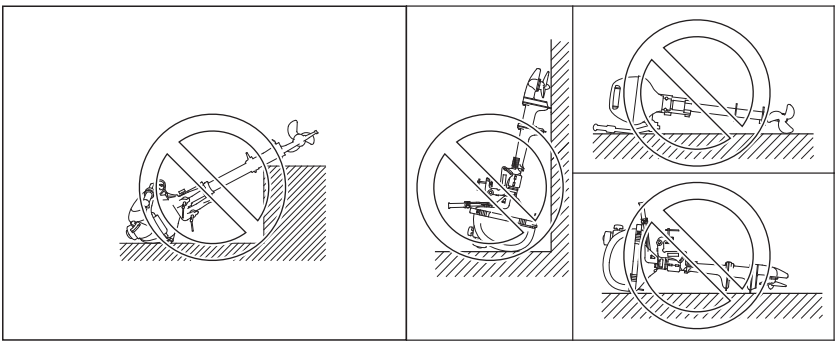
リコイルスターターグリップをゆっくり引き、重くなるところで止めます。（エンジンバルブが閉じ、シリンダー内に錆が発生しないように、また燃焼室内にほこりが入らない状態にする）



- 立てた状態での運搬（41 頁参照）または、倒した状態での運搬（42 頁参照）に従って保管してください。

取扱いのポイント

・直射日光をさけ、風通しのよい、湿気の少ない場所に保管します。
・次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。
・下図のような状態での保管は絶対にしないでください。



- 係留などで本機をボートに取付けた状態で、チルトアップして保管する場合、リコイルスターターグリップを下側にして、蝶ボルト（ハンドル重さ調節ボルト）を締付けてください。（38 頁 “ チルトアップのしかた ” 参照）

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店またはサービス指定店で点検をしてもらうことが船外機を長持ちさせる秘けつです。

(1)エンジンがかからない

燃料

現　　象	原　　因	解　決　方　法
キャブレターに燃料がこない	燃料タンクに燃料がない	補給：28 頁参照
	燃料コックが開いていない	燃料コックレバーを“運転”の位置にする：31 頁参照
	通気ノブが開いていない	ノブを開く：31 頁参照
	燃料ホースの折れ曲がり	折れ曲がりをなおす
	燃料タンクフィルターの詰まり	販売店またはサービス指定店にお持ちください
キャブレターに燃料はくる	キャブレターのオーバーフロー	販売店またはサービス指定店にお持ちください
	キャブレターの詰まり	

電気

現　　象	原　　因	解　決　方　法
電気系統の不良	点火プラグの締付け不良	点火プラグを確実に締付ける：49 頁参照
	非常停止スイッチクリップの取付け不良	クリップを確実に取付ける：30 頁参照
	点火プラグの汚れ	清掃：49 頁参照
	点火プラグの火花すき間不良	調整：49 頁参照
	点火プラグの破損	交換：49 頁参照
	高圧コードの電気リーク	販売店またはサービス指定店にお持ちください
	イグニッションコイル不良	
	ワイヤーハーネスの不良	
	停止スイッチコードの電気リーク	
	停止スイッチの戻り不良	

(2)始動してもすぐ止まる。航走中時々エンジンが止まる。

現　　象	原　　因	解　決　方　法
燃料タンクに燃料はある	通気ノブが開いていない	ノブを開く:31頁参照
	燃料に水が混入している	販売店またはサービス指定店にお持ちください
	燃料タンクフィルターが詰まっている	
	エアスクリューの開きすぎ	
	アイドリングの低過ぎ	
	キャブレターの詰まり	

(3)エンジンオーバーヒート

現　　象	原　　因	解　決　方　法
オーバーヒート	点火プラグの品番のちがい	正しい点火プラグを取付ける：49頁参照

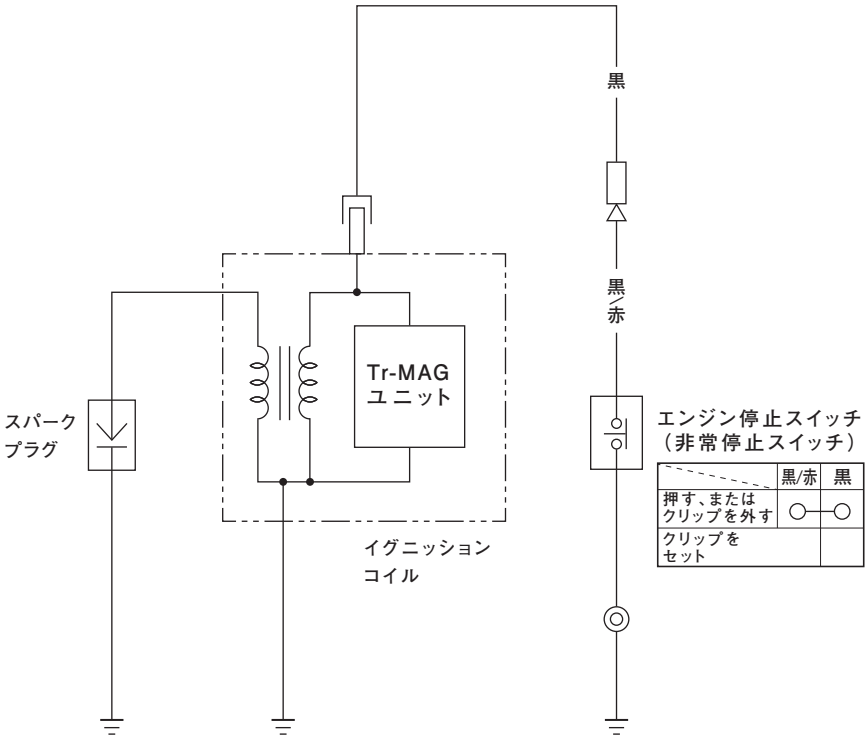
主　　要　　諸　　元

項　　目	仕　　様　　諸　　元	
名称（型式）	BF2DK3（BCBJ）	
タイプ	SCHJ	LCHJ
全長	412 mm	412 mm
全幅	285 mm	285 mm
全高	956 mm	1,109 mm
乾燥質量（重量）※	13.6 kg	14.3 kg
定格出力	1.47 kW (2 PS)	
推奨回転範囲	5,000 ー 6,000 rpm	
シリンダー内径×行程	45.0×36.0 mm	
総排気量	57.2 cm^3	
冷却方式	強制空冷	
始動方式	リコイルスターター式	
潤滑方式	強制飛沫式	
潤滑油量	エンジン：0.25 L ギアケース：0.05 L	
オイルグレード	エンジン：API 分類 SG、SH、SJ 級または SL 級相当の SAE 10W-30 エンジンオイル ギアケース：API 分類 GL-4, SAE 分類 90 番ハイポイドギアオイル	
燃料タンク容量	1.1 L	
使用燃料	無鉛ガソリン	
点火方式	トランジスターマグネトー式	
点火プラグ	LR4C-E (NGK)	
操縦装置	ティラーハンドル	
チルト角度	75°（トランサム角 5° 時）	
プロペラ	翼数ー直径 × ピッチ（3 ー 184×120 mm）	
回転方向	進行方向に向って右回転	
トランサム高さ	418 mm （トランサム角 5° 時）	571 mm （トランサム角 5° 時）

※ 数値は、プロペラを含む

この主要諸元は予告なく変更することがあります。

配　線　図


黒
黒/赤
Tr-MAG
ユニット
スパーク
プラグ
エンジン停止スイッチ
（非常停止スイッチ）
黒/赤
黒
押す、または
クリップを外す
クリップを
セット
イグニッション
コイル

点　検　整　備　記　録　表

定 期 点 検	実施年月日	実施工場	実施者氏名	臨時整備※
初回（10 時間目）点検	・　・			
6 か月点検	・　・			
12 か月（1 年）点検	・　・			
18 か月点検	・　・			
24 か月（2 年）点検	・　・			
30 か月点検	・　・			
36 か月（3 年）点検 （法定中間検査）	・　・			
42 か月点検	・　・			
48 か月（4 年）点検	・　・			
54 か月点検	・　・			
60 か月（5 年）点検	・　・			
66 か月点検	・　・			
72 か月（6 年）点検 （法定定期検査）	・　・			

※ 臨時整備を行ったときは、空欄に主たる整備内容を付記します。

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00 ～ 12：00　　13：00 ～ 17：00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 － 1
所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

（1）製品名、タイプ名
（2）ご購入年月日
（3）販売店名
（4）フレーム号機 _____（書込み控え欄）

HONDA

30ZVA611
00X30-ZVA-6110

XXXX.XXXX.XX
©2026 本田技研工業株式会社
Printed in Japan